

急性呼吸器感染症サーベイランス週報:

2026 年第 3 週(2026 年 1 月 12 日~2026 年 1 月 18 日)

Acute Respiratory Infection Surveillance Weekly Report: Epidemiologic Situational Awareness

Week 3, 2026

本報は全国から報告された急性呼吸器感染症(Acute Respiratory Infection、以下、ARI という)のサーベイランス報告を精査してまとめ、地方自治体等で感染症対策に従事する皆様や国民の皆様に、広く疫学情報を提供・還元することを目的としています。ARI、インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は、小児科および内科からなる急性呼吸器感染症定点から、RS ウイルス感染症、ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、小児科定点から報告されています。患者サーベイランスでは集計日に直近 1 週間のデータを集計し、それ以外は、以前のデータを再掲しています。病原体サーベイランスでは、集計日に全ての期間のデータを集計しています。週ごとの「傾向(トレンド)」と「水準(レベル)」を踏まえ、感染の流行の状況について、解釈を行っています。巻末に本報に関する注意事項を記載してあります。なお報告数は暫定値であり、変更の可能性があることにご注意下さい。

今週の状況(概要):

2026 年第 3 週(1 月 12 日~1 月 18 日)における ARI の定点当たり報告数は 48.91(報告数 185,435 例)であり、前週(1 月 5 日~1 月 11 日)と比較して減少した。各感染症の定点当たり報告数では、インフルエンザは 11.33、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は 2.22、COVID-19 は 1.54、RS ウイルス感染症は 0.62、咽頭結膜熱は 0.22、ヘルパンギーナは 0.02 であった。また、新規入院患者数は、インフルエンザは 844 例で前週と比較して 237 例減少した。COVID-19 は 670 例で前週と比較して 22 例増加した。

年齢群別にみると、報告数が最も多かった年齢群は、インフルエンザ、COVID-19 では 10-59 歳、RS ウイルス感染症、咽頭結膜熱、ヘルパンギーナでは 1-4 歳、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎では 5-14 歳であった。ARI の定点当たり報告数が前週を上回った都道府県は 5 件であった。また各感染症の定点当たり報告数が多かった上位 3 都道府県は、インフルエンザでは宮崎県、鹿児島県、大分県であった。COVID-19 では北海道、福島県、栃木県であった。RS ウイルス感染症では山形県、島根県、鹿児島県であった。咽頭結膜熱では宮崎県、島根県、山形県であった。ヘルパンギーナでは福井県、沖縄県、岡山県であった。A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎では愛媛県、福岡県、山形県であった。

2026 年第 3 週に検体が採取されて集計時点までに報告されたもののうち、インフルエンザウイルス B 型は 18 件、RS ウイルスは 12 件、SARS-CoV-2 は 7 件、インフルエンザウイルス A 型は 6 件であった。インフルエンザウイルス A 型では、A/H3 が 5 件、亜型不明が 1 件、インフルエンザウイルス B 型では、ビクトリア系統が 13 件、系統不明が 5 件であった。

目次

今週の状況(概要):.....	1
1. 患者サーベイランス	3
1.1. 全国の定点当たり報告数.....	3
1.2. 全国の年齢群別報告数.....	4
1.3. 都道府県別の定点当たり報告数.....	8
1.4. 全国のインフルエンザおよび COVID-19 の新規入院患者数	21
2. 病原体サーベイランスの状況	22
2.1. 全国の病原体別報告数.....	22
2.2. SARS-CoV-2 ゲノムサーベイランス.....	26
注意事項	27
地域の定義	27
参考サイト	28
参考 1: 検体採取週ごとの全自動遺伝子解析装置等による検査結果	29
参考 2: 各感染症の週ごとの都道府県別定点当たり報告数.....	30

1. 患者サーベイランス

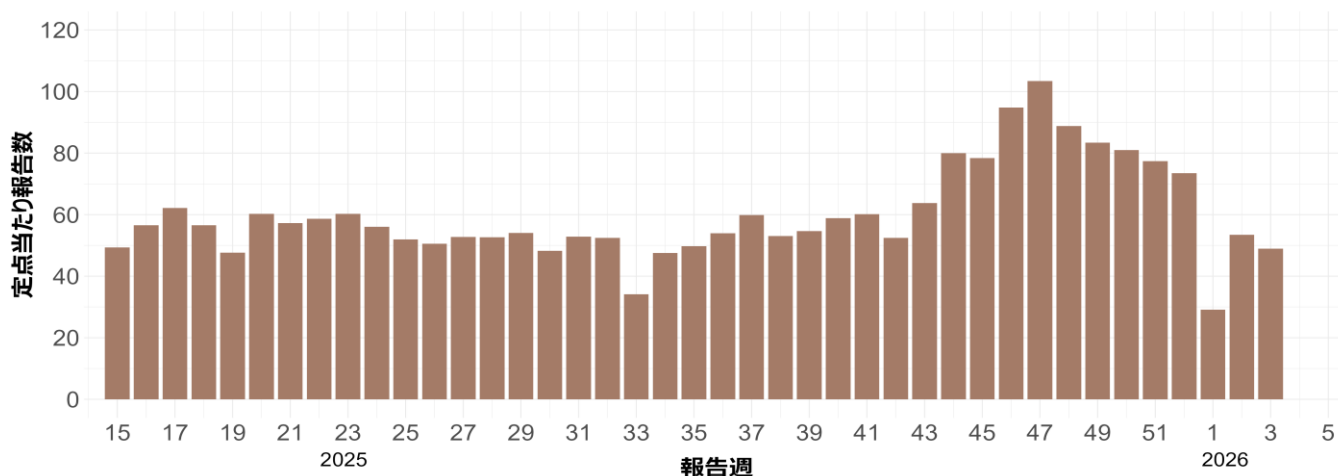
1.1. 全国の定点当たり報告数

2026 年第 3 週における ARI は、3,791 カ所の急性呼吸器感染症定点から報告され、定点当たり報告数は 48.91(報告数 185,435 例)であった(図 1)。前週比は 0.92 であった。

急性呼吸器感染症定点から報告されたインフルエンザは 11.33(報告数 43,027 例)、COVID-19 は 1.54(報告数 5,833 例)であった(図 1A)。なお、報告定点数は 3,799 カ所であった。

小児科定点から報告された RS ウイルス感染症は 0.62(報告数 1,430 例)、咽頭結膜熱は 0.22(報告数 504 例)、ヘルパンギーナは 0.02(報告数 45 例)、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は 2.22(報告数 5,115 例)であった(図 1B)。なお、報告定点数は 2,306 カ所であった。最近の動向としては、インフルエンザ、RS ウイルス感染症、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は 2 週連続で増加、COVID-19、咽頭結膜熱は前週から減少、ヘルパンギーナは前週から横ばいであった。

図 1: 週ごとの ARI の定点当たり報告数



出典: 感染症発生動向調査(2026 年 1 月 21 日時点, データ範囲: 2025 年 4 月 7 日~2026 年 1 月 18 日)

図 1A: 週ごとのインフルエンザおよび COVID-19 の定点当たり報告数

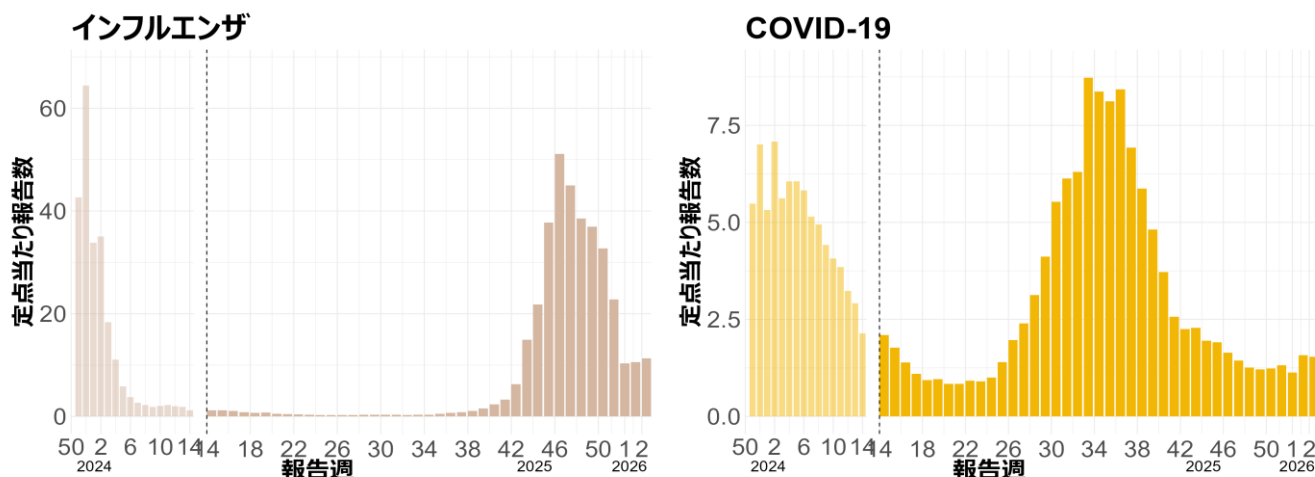
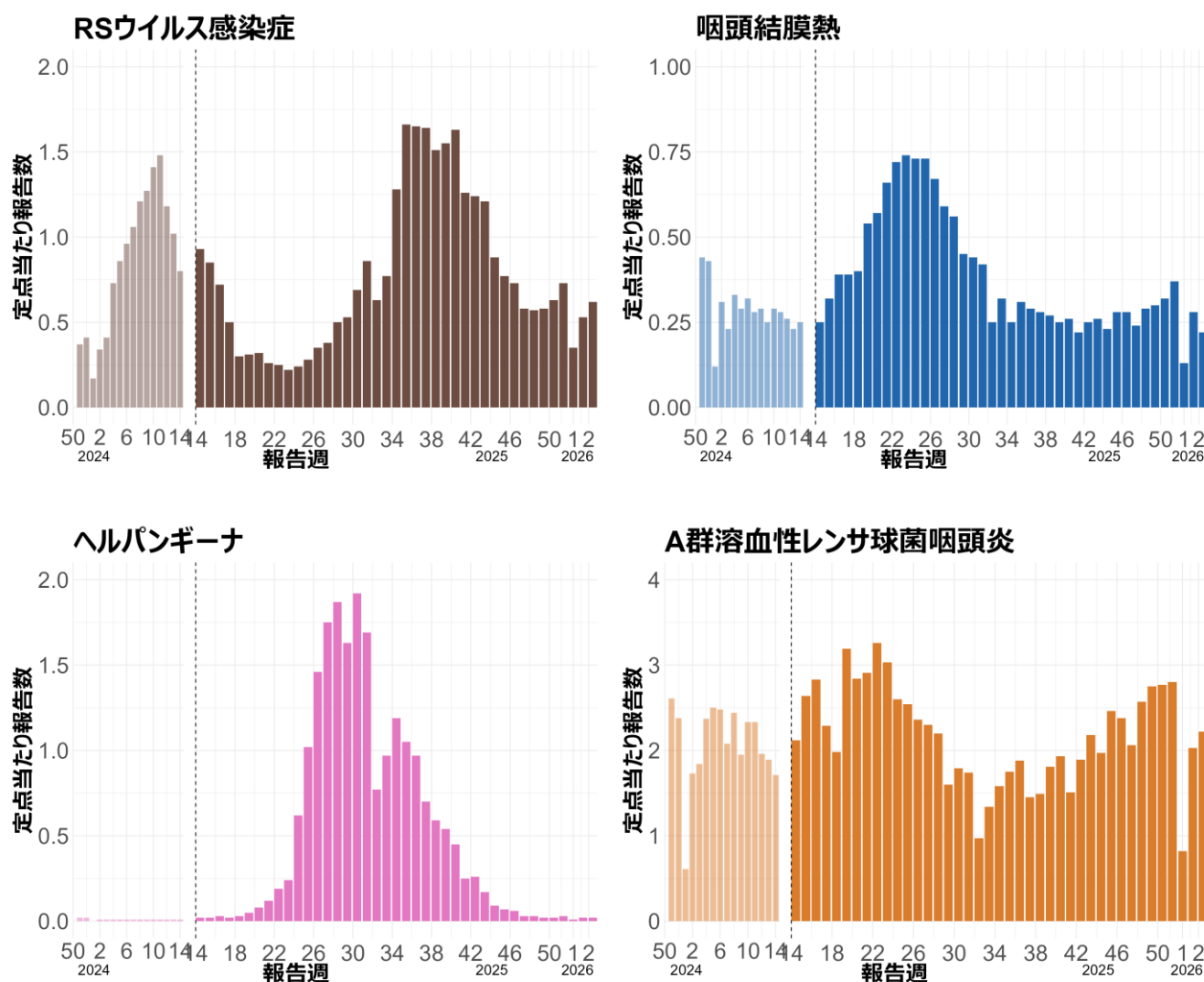


図 1B: 週ごとの感染症別の定点当たり報告数



出典: 感染症発生動向調査(2026 年 1 月 21 日時点, データ範囲: 2024 年 12 月 9 日~2026 年 1 月 18 日)

注) 報告数は、当該週の IDWR で還元したデータの再掲である。

注) 定点数の変更をうけて、2025 年第 14 週と第 15 週の間にスペースと点線を入れ、棒グラフに濃淡をつけて区別している。

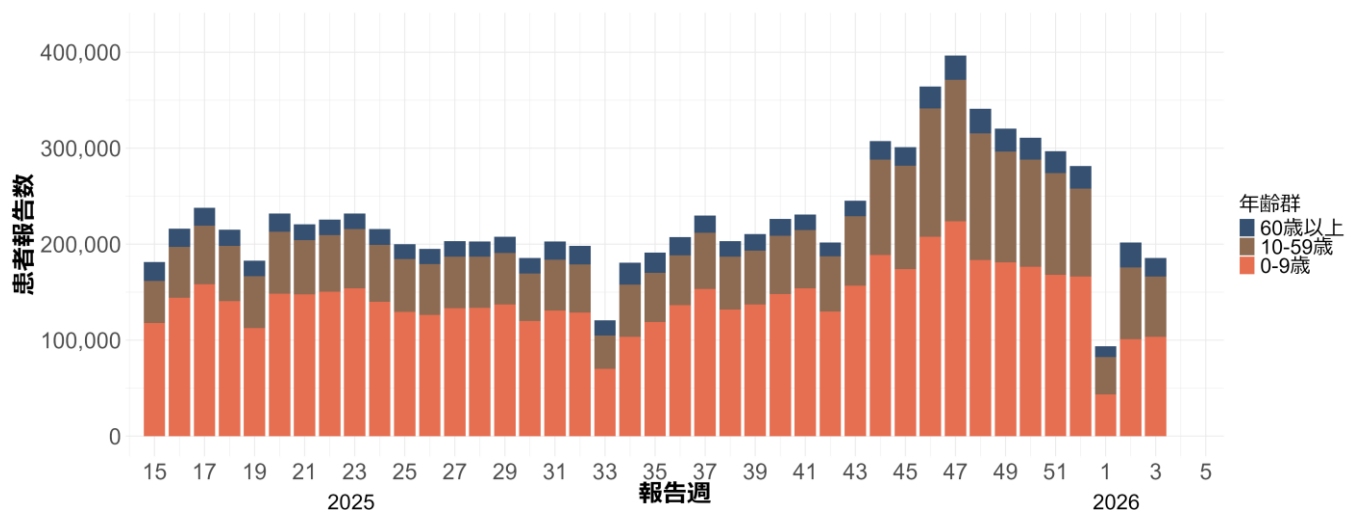
注) 2025 年 4 月 7 日(第 15 週)より、感染症発生動向調査事業実施要綱上の定点の選定基準が変更され、インフルエンザ/COVID-19 定点(約 5,000 医療機関)から急性呼吸器感染症定点(約 3,000 医療機関)に変更、小児科定点は約 3,000 医療機関から約 2,000 医療機関に変更された。

1.2. 全国の年齢群別報告数

2026 年第 3 週に定点から報告された ARI の報告数を年齢群別にみると、0-9 歳では 103,586 例(前週比 1.02)、10-59 歳では 62,806 例(前週比 0.84)、60 歳以上は 19,043 例(前週比 0.74)であった(図 2)。

各感染症の年齢群別報告数の推移をみると、インフルエンザは0-9歳では増加、10-59歳では横ばい、60歳以上では減少であった。COVID-19は0-9歳では増加、10-59歳、60歳以上では減少であった(表1A)。またRSウイルス感染症は0歳、15歳以上では減少、1-4歳、5-14歳では増加した。咽頭結膜熱は0歳、1-4歳、15歳以上では減少、5-14歳では増加した。ヘルパンギーナは0歳では横ばい、1-4歳、5-14歳では増加、15歳以上では減少した。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は0歳では横ばい、1-4歳、5-14歳では増加、15歳以上では減少した(表1B)。週ごとの年齢群別報告数を図2Aおよび図2Bに示す。なお、インフルエンザ及びCOVID-19の60歳以上はそれぞれ2,542例、1,796例であり、うち80歳以上はそれぞれ715例、694例であった。

図2: 週ごとのARIの年齢群別報告数



出典: 感染症発生動向調査(2026年1月21日時点, データ範囲: 2025年4月7日~2026年1月18日)

図2A: 週ごとのインフルエンザおよびCOVID-19の年齢群別報告数

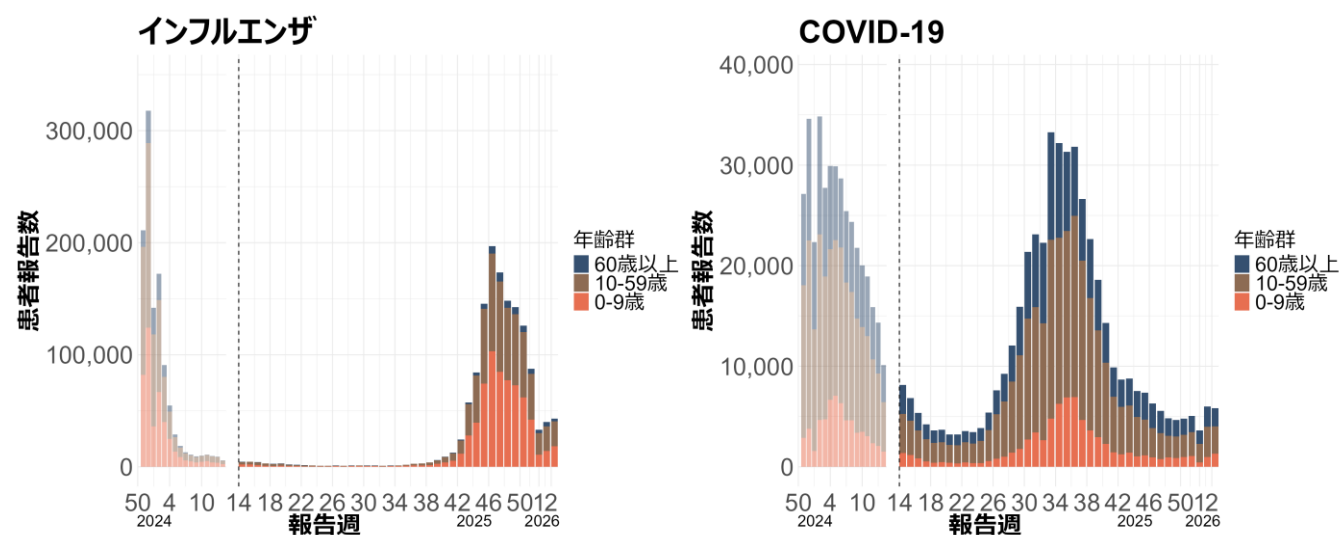
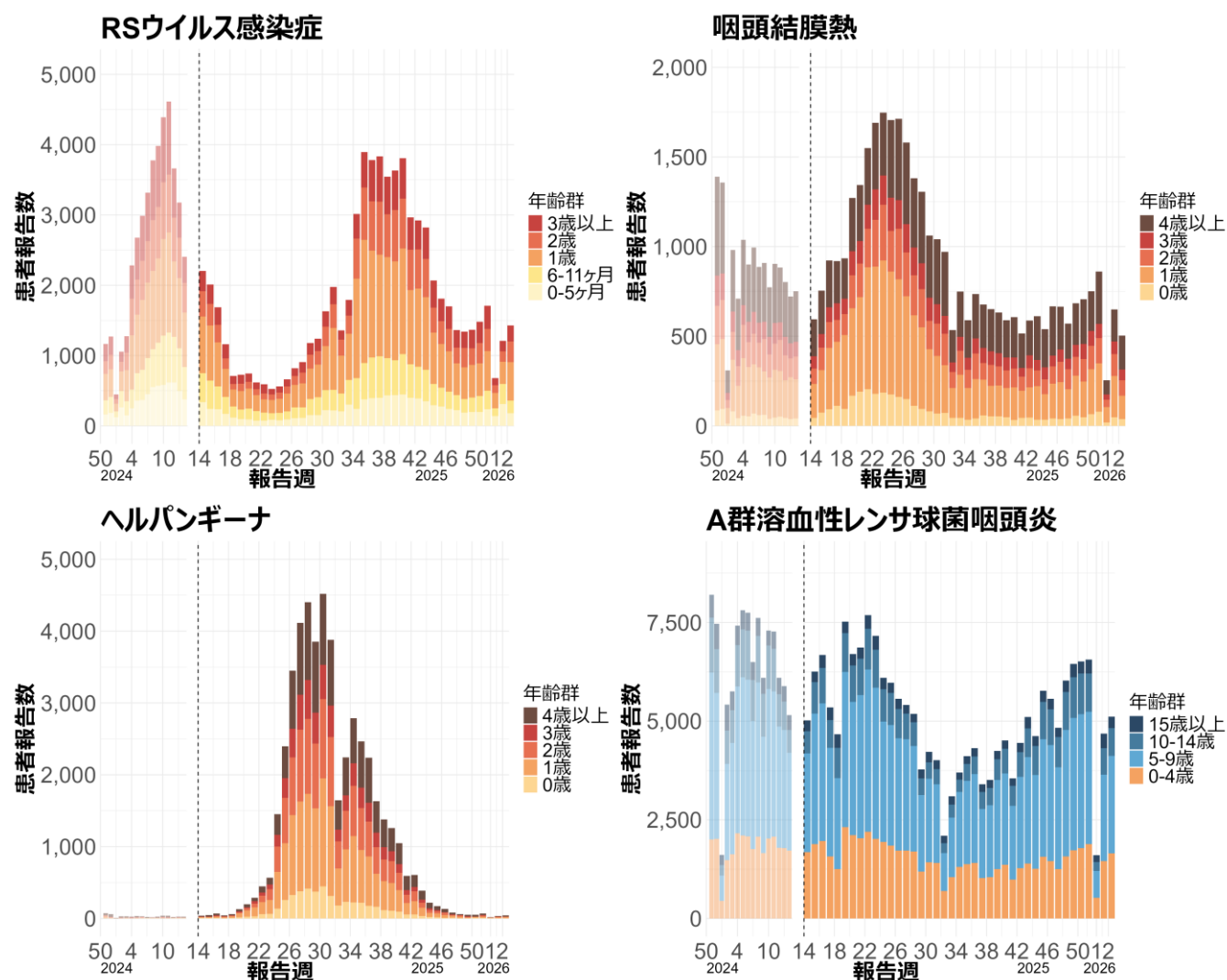


図 2B: 週ごとの感染症別の年齢群別報告数



出典: 感染症発生動向調査(2026 年 1 月 21 日時点, データ範囲: 2024 年 12 月 9 日~2026 年 1 月 18 日)

注)報告数は、当該週の IDWR で還元したデータの再掲である。

注)定点数の変更をうけて、2025 年第 14 週と第 15 週の間にスペースと点線を入れ、棒グラフに濃淡をつけて区別している。

注)2025 年 4 月 7 日(第 15 週)より、感染症発生動向調査事業実施要綱上の定点の選定基準が変更され、インフルエンザ/COVID-19 定点(約 5,000 医療機関)から急性呼吸器感染症定点(約 3,000 医療機関)に変更、小児科定点は約 3,000 医療機関から約 2,000 医療機関に変更された。

表 1A: 当該週におけるインフルエンザおよび COVID-19 の年齢群別報告数

年齢群	インフルエンザ	COVID-19
0-9 歳	18,475 (1.31)	1,292 (1.33)
10-59 歳	22,010 (1.00)	2,745 (0.91)
60 歳以上	2,542 (0.65)	1,796 (0.89)
計	43,027 (1.08)	5,833 (0.97)

表 1B: 当該週における感染症別の年齢群別報告数

年齢群	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	ヘルパンギーナ	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎
0 歳	361 (0.61)	38 (0.78)	4 (1.00)	17 (1.00)
1-4 歳	1,001 (1.80)	326 (0.69)	29 (1.12)	1,633 (1.14)
5-14 歳	55 (1.38)	133 (1.08)	11 (2.75)	3,177 (1.11)
15 歳以上	13 (0.65)	7 (0.88)	1 (0.50)	288 (0.78)
計	1,430 (1.18)	504 (0.78)	45 (1.25)	5,115 (1.09)

出典: 感染症発生動向調査(2026 年 1 月 21 日時点, データ範囲: 2026 年 1 月 12 日~2026 年 1 月 18 日)

注)カッコ内の数値は前週比であり、前週の報告数は当該週の IDWR で還元したデータを用いた。なお、年齢階級別報告数の詳細については IDWR(定点把握の対象となる 5 類感染症ページ)で還元しているので参照のこと。

注)前週の報告数が 0 であった場合は、前週比の欄に「—」と表記する。

1.3. 都道府県別の定点当たり報告数

2026年第3週のARIの定点当たり報告数の上位3都道府県は、群馬県が67.02で最も多く、次いで鹿児島県が66.23、さらに栃木県が65.81であった(図3A)。定点当たり報告数が前週を上回った都道府県は5件であった(表2)。定点当たり報告数は32.26~67.02であった(図4)。

定点当たり報告数が多かった上位3都道府県は、インフルエンザでは宮崎県、鹿児島県、大分県であった。COVID-19では北海道、福島県、栃木県であった。RSウイルス感染症では山形県、島根県、鹿児島県であった。咽頭結膜熱では宮崎県、島根県、山形県であった。ヘルパンギーナでは福井県、沖縄県、岡山県であった。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎では愛媛県、福岡県、山形県であった(表3)。

インフルエンザの定点当たり報告数が10を上回った都道府県は26件、20を上回った都道府県は3件であった(図3B)。

表2: 当該週における都道府県別ARIの定点当たり報告数

都道府県	報告数	定点当たり報告数	前週比
北海道	6,190	36.85	0.83
青森県	2,207	42.44	0.95
岩手県	2,490	59.29	0.90
宮城県	3,194	58.07	0.90
秋田県	862	34.48	0.84
山形県	1,951	52.73	0.93
福島県	2,464	51.33	0.87
茨城県	3,878	57.88	0.86
栃木県	3,093	65.81	0.92
群馬県	3,016	67.02	0.96
埼玉県	11,000	62.50	0.98
千葉県	9,991	54.90	0.92
東京都	17,688	42.32	0.90
神奈川県	12,414	52.16	0.87
新潟県	2,223	42.75	0.84
富山県	2,557	54.40	0.93
石川県	2,152	45.79	0.93
福井県	1,264	32.41	0.96

都道府県	報告数	定点当たり報告数	前週比
山梨県	1,129	32.26	0.82
長野県	2,783	55.66	0.87
岐阜県	1,916	42.58	0.98
静岡県	5,741	41.30	0.87
愛知県	9,556	58.63	0.85
三重県	2,862	41.48	0.86
滋賀県	2,959	51.02	1.05
京都府	2,896	45.25	0.95
大阪府	9,546	32.92	0.87
兵庫県	8,234	50.21	0.97
奈良県	1,347	32.85	0.87
和歌山県	1,982	44.04	0.92
鳥取県	1,313	45.28	0.87
島根県	1,119	55.95	0.94
岡山県	2,552	51.04	0.97
広島県	4,399	47.30	0.96
山口県	3,674	58.32	0.94
徳島県	1,349	40.88	0.93
香川県	893	38.83	0.93
愛媛県	2,391	64.62	0.96
高知県	1,718	45.21	0.94
福岡県	6,385	52.34	0.98
佐賀県	1,101	45.88	0.80
長崎県	3,099	60.76	0.99
熊本県	3,682	51.14	1.05
大分県	3,697	63.74	1.10

都道府県	報告数	定点当たり報告数	前週比
宮崎県	1,789	63.89	0.89
鹿児島県	3,775	66.23	1.02
沖縄県	2,914	64.76	1.06

出典: 感染症発生動向調査(2026 年 1 月 21 日時点, データ範囲: 2026 年 1 月 12 日～2026 年 1 月 18 日)

注)前週の報告数は、当該週の IDWR で還元したデータを用いた。

注)前週の報告数が 0 であった場合は、前週比の欄に「―」と表記する。

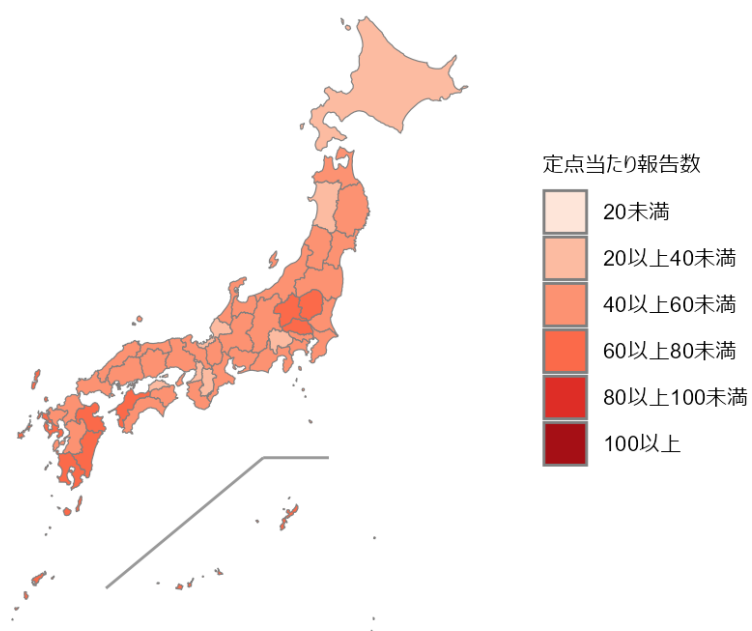
表 3: 当該週における感染症別定点当たり報告数の上位 3 都道府県

順位		インフルエンザ	COVID-19	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	ヘルパンギーナ	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎
1	都道府県	宮崎県	北海道	山形県	宮崎県	福井県	愛媛県
	定点当たり報告数	30.75	4.89	1.81	1.53	0.16	5.60
2	都道府県	鹿児島県	福島県	島根県	島根県	沖縄県	福岡県
	定点当たり報告数	27.98	4.06	1.73	1.18	0.12	4.07
3	都道府県	大分県	栃木県	鹿児島県	山形県	岡山県	山形県
	定点当たり報告数	21.43	3.83	1.45	0.62	0.11	4.04

出典: 感染症発生動向調査(2026 年 1 月 21 日時点, データ範囲: 2026 年 1 月 12 日～2026 年 1 月 18 日)

注)定点当たり報告数が同値であった場合には、都道府県番号の昇順により記載する。

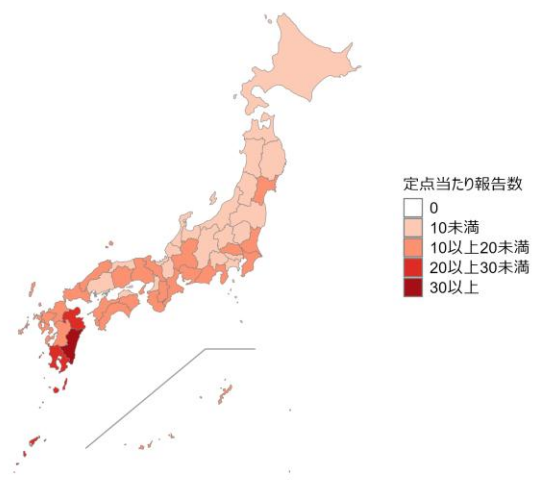
図 3A: 当該週における都道府県別 ARI の定点当たり報告数



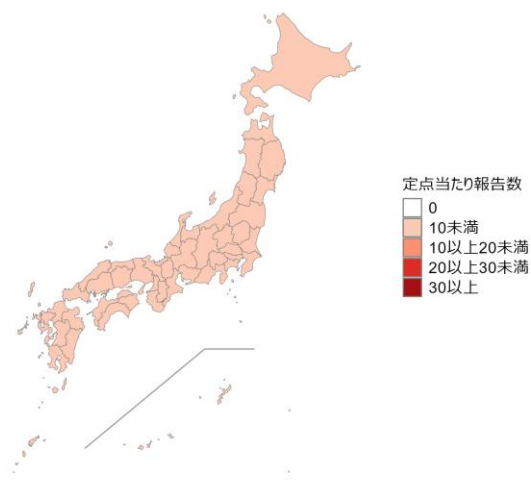
出典: 感染症発生動向調査(2026 年 1 月 21 日時点, データ範囲: 2026 年 1 月 12 日～2026 年 1 月 18 日)

図 3B: 当該週における各感染症の都道府県別定点当たり報告数

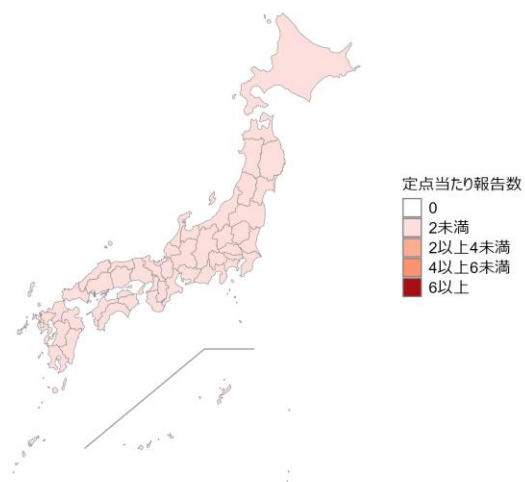
インフルエンザ



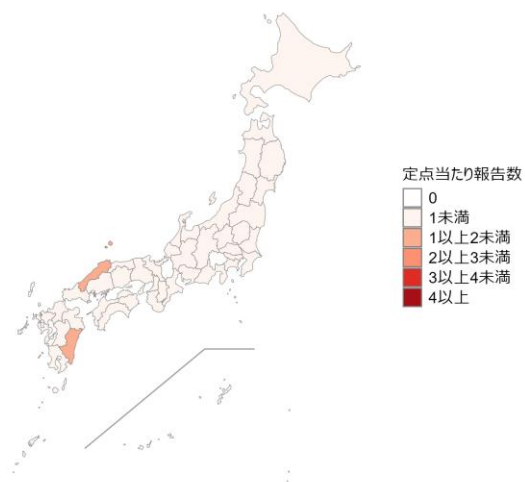
COVID-19



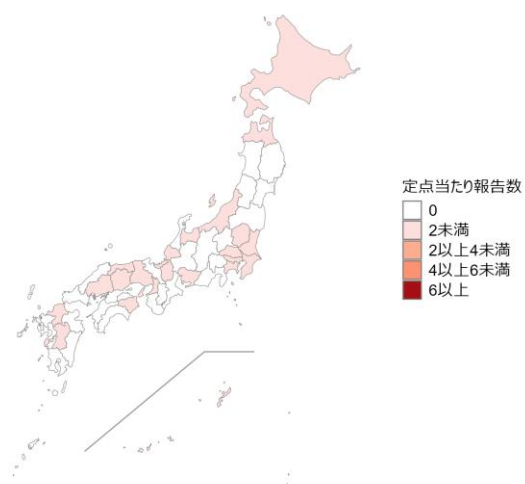
RSウイルス感染症



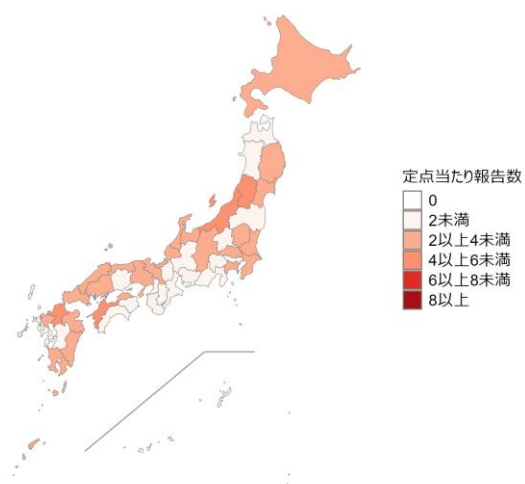
咽頭結膜熱



ヘルパンギーナ

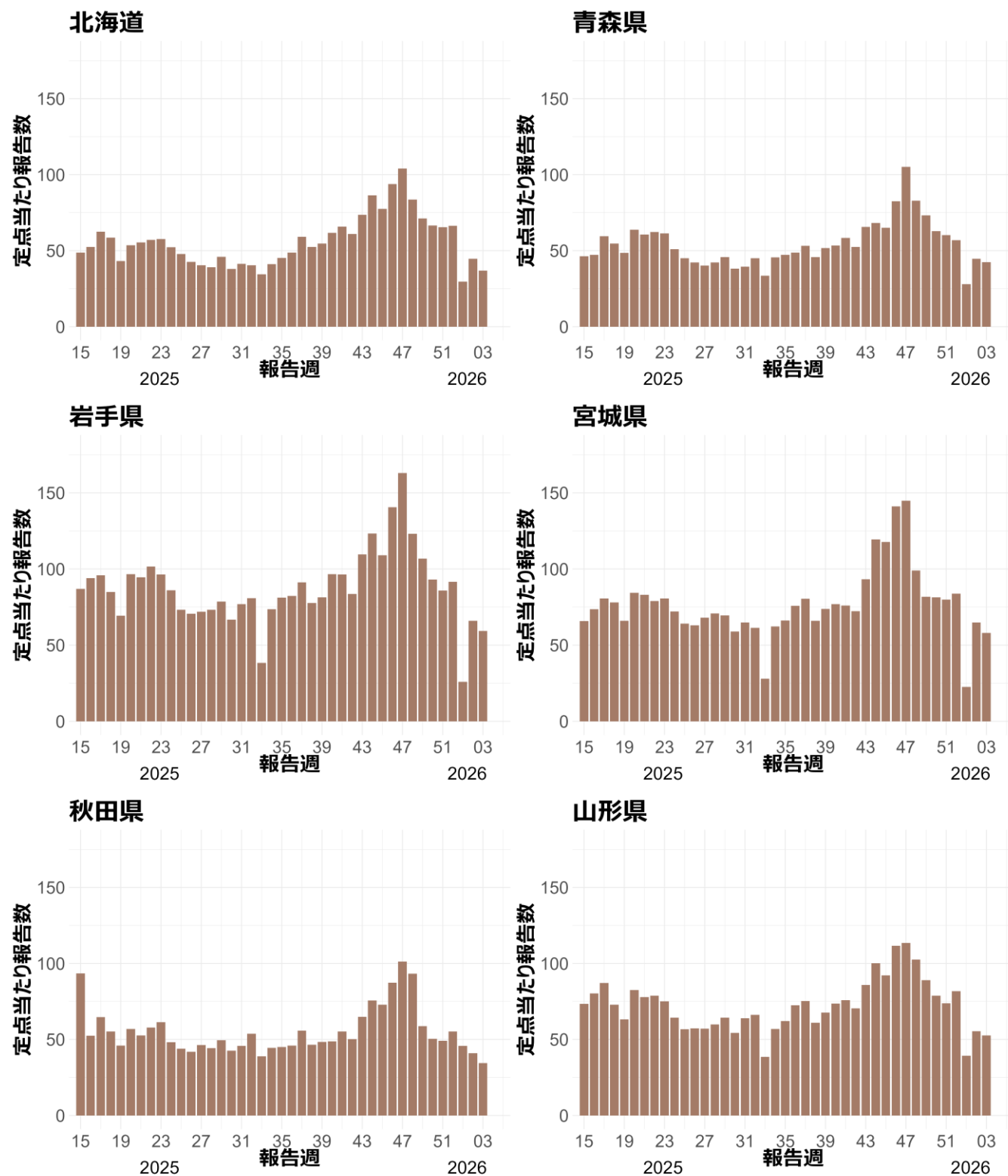


A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

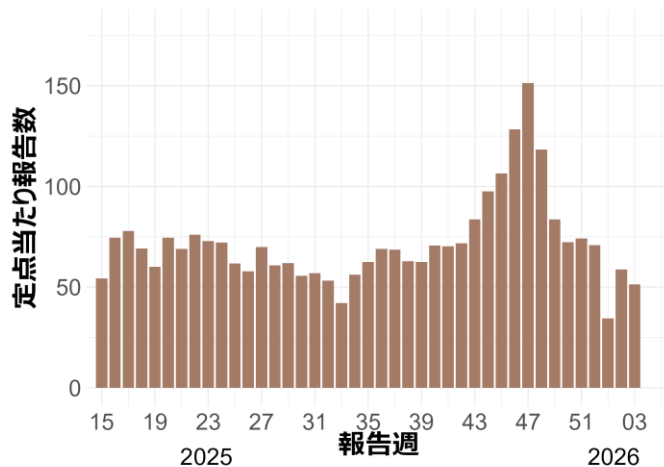


出典: 感染症発生動向調査(2026 年 1 月 21 日時点, データ範囲: 2026 年 1 月 12 日～2026 年 1 月 18 日)

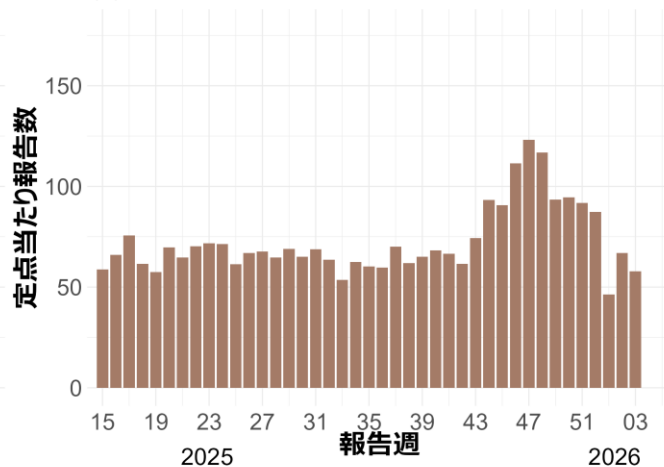
図 4: 週ごとの都道府県別 ARI の定点当たり報告数



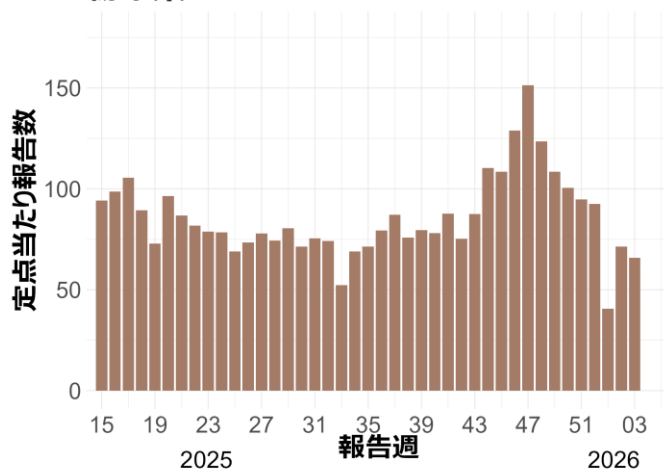
福島県



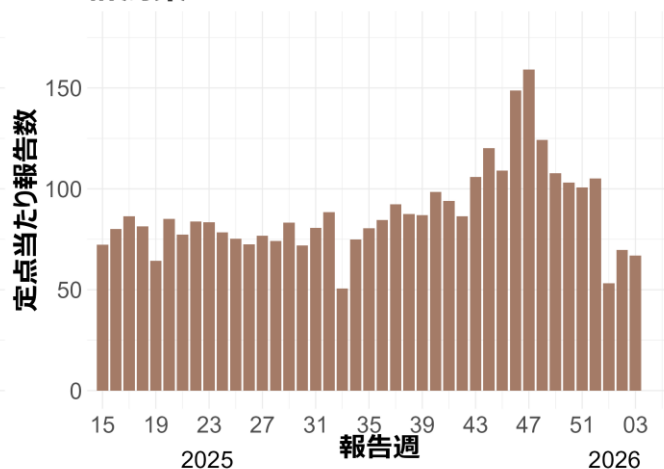
茨城県



栃木県



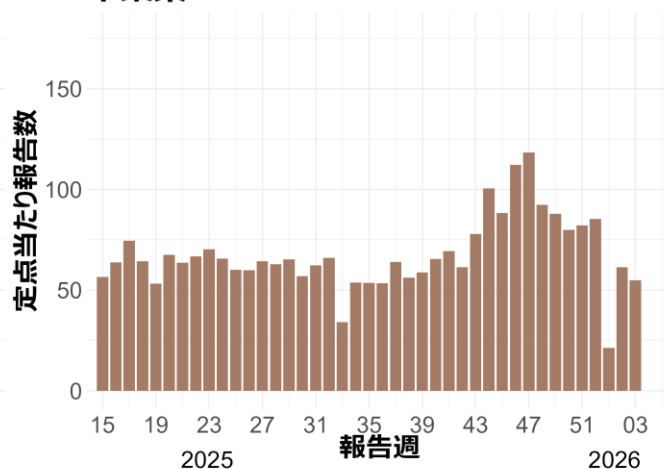
群馬県



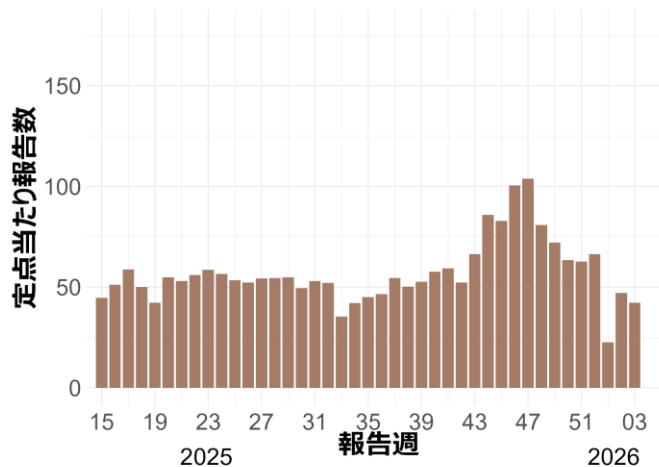
埼玉県



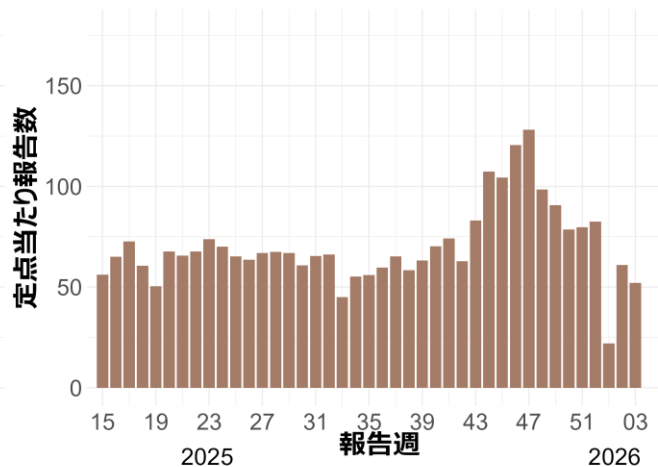
千葉県



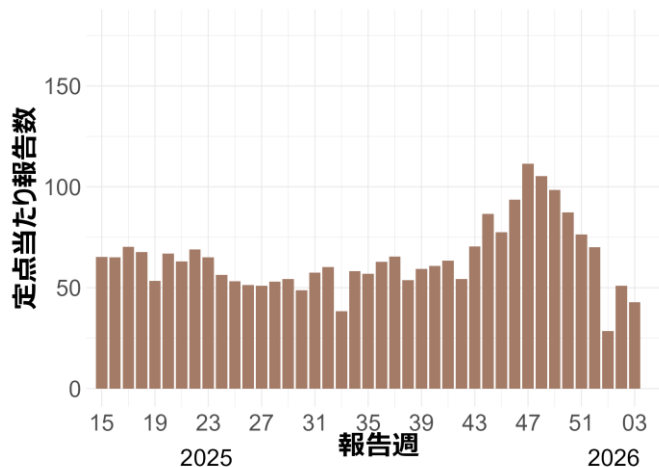
東京都



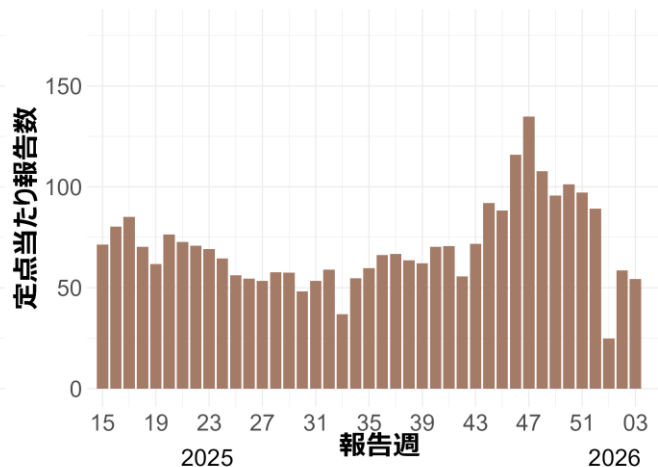
神奈川県



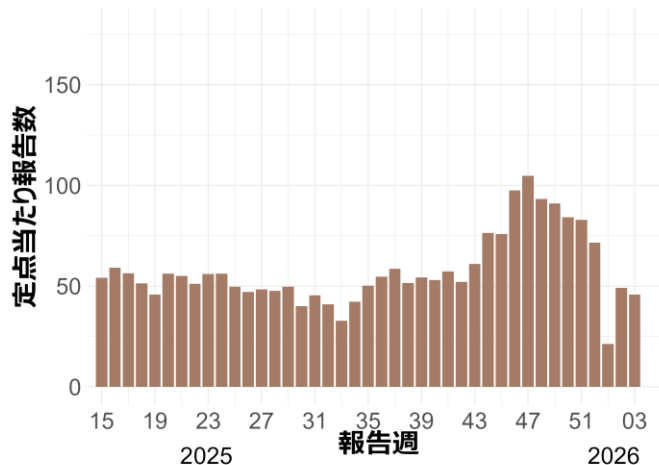
新潟県



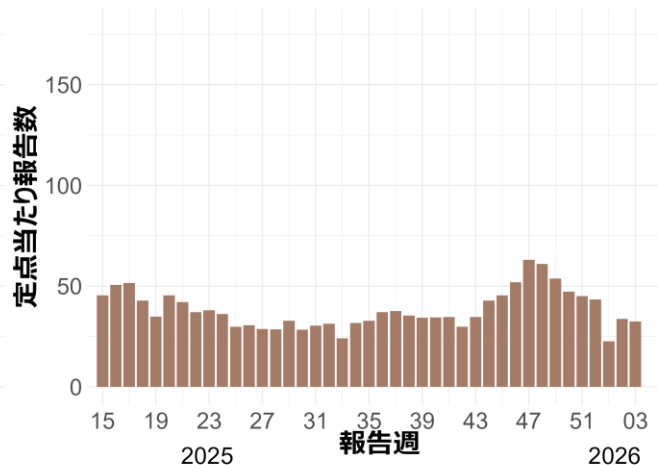
富山県



石川県



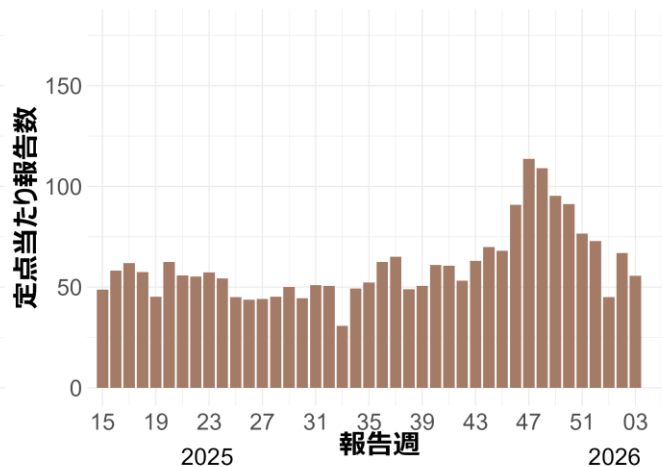
福井県



山梨県



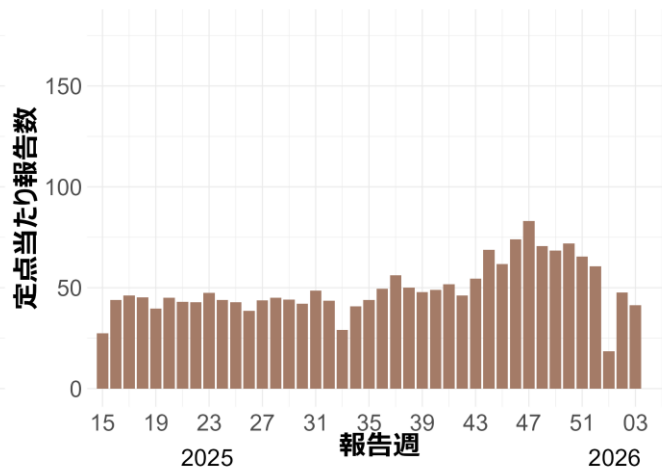
長野県



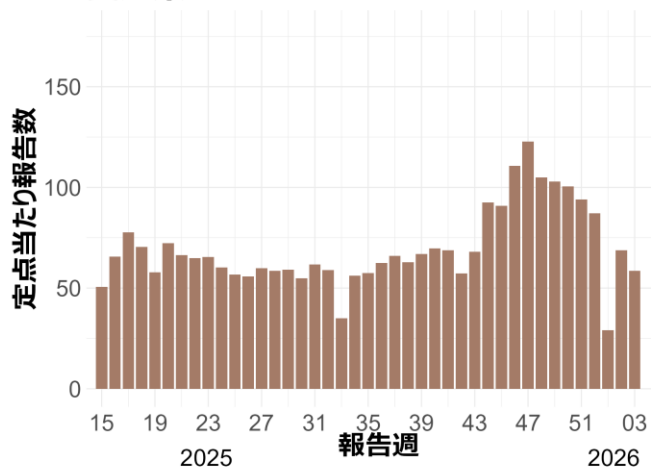
岐阜県



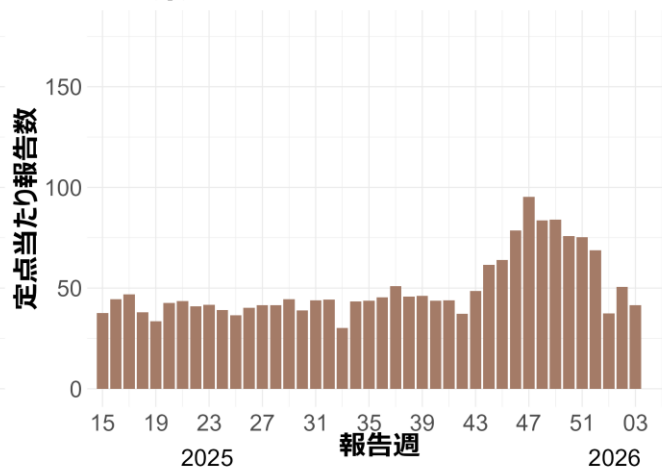
静岡県



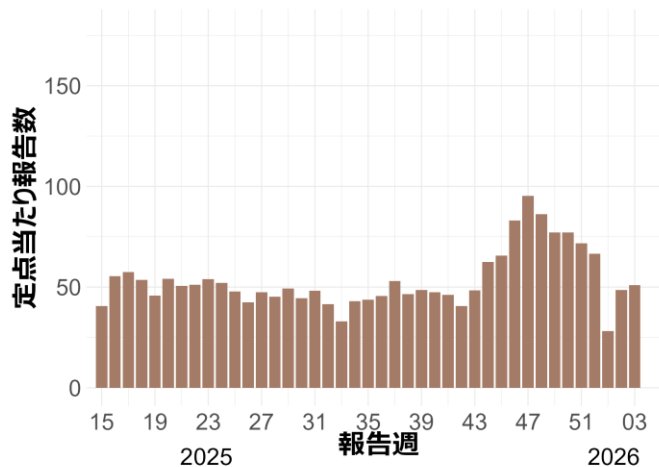
愛知県



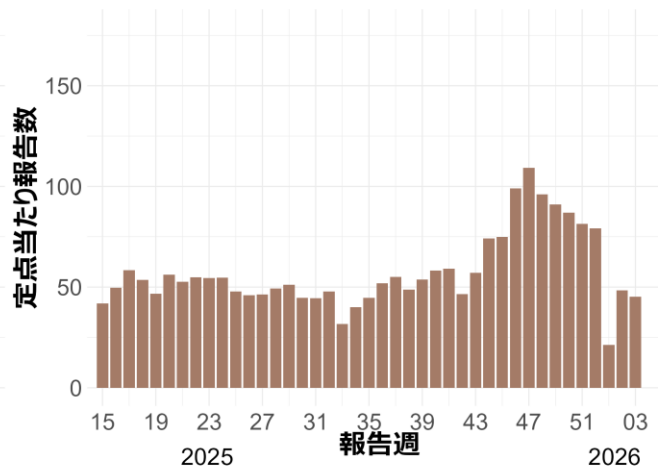
三重県



滋賀県



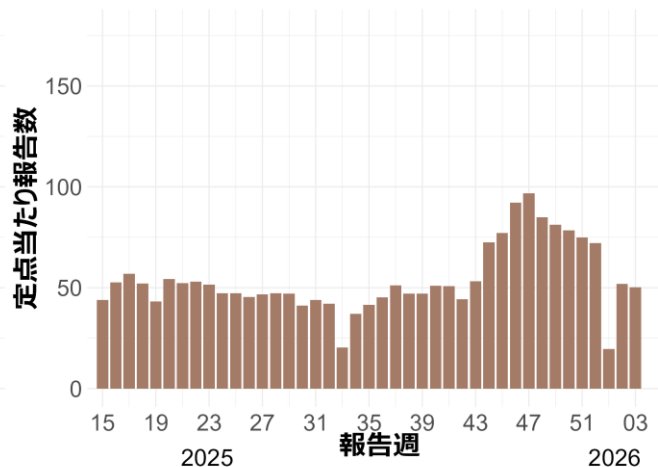
京都府



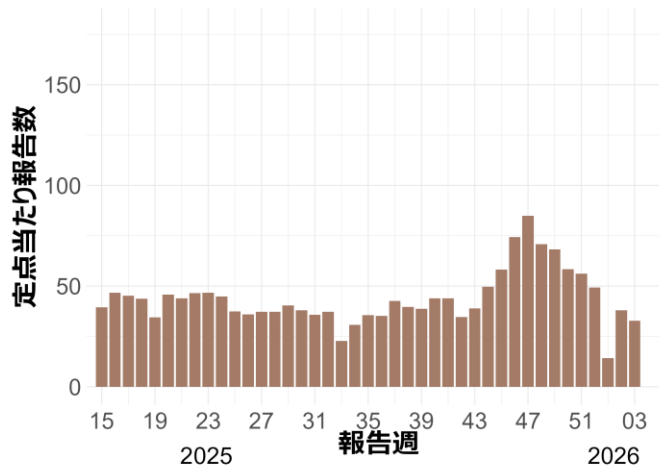
大阪府



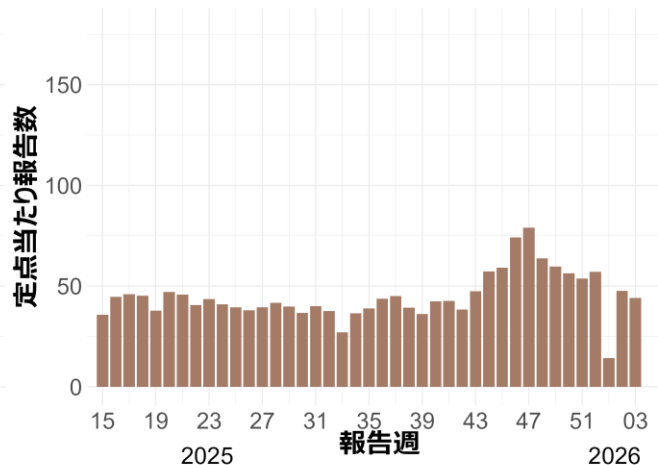
兵庫県



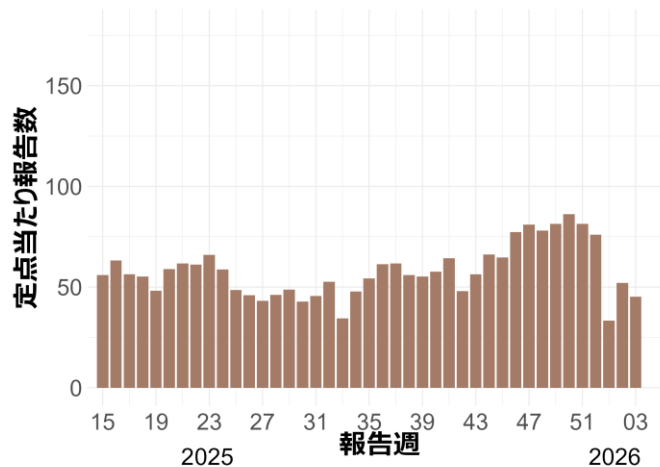
奈良県



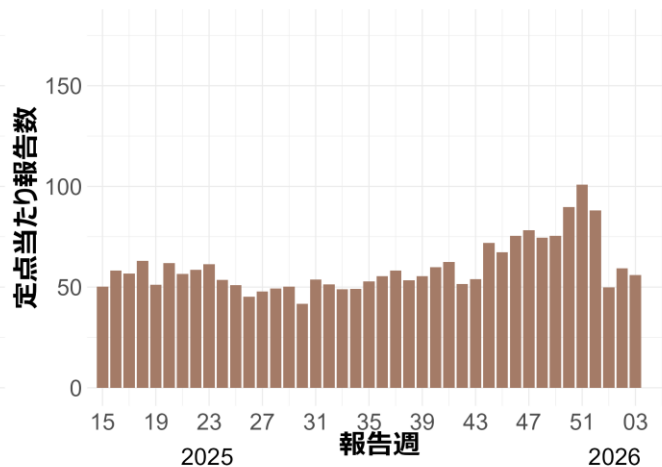
和歌山県



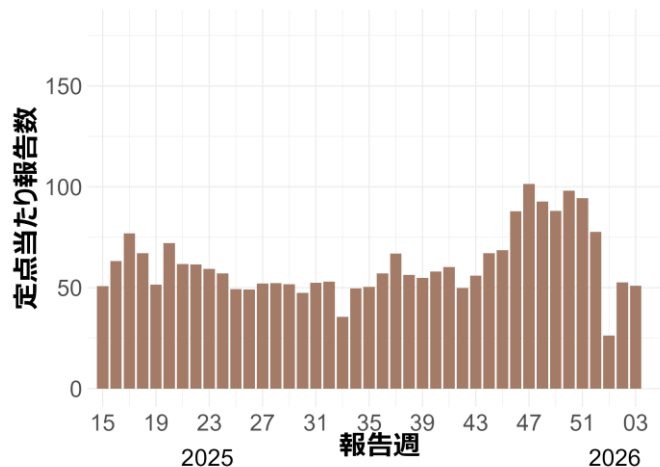
鳥取県



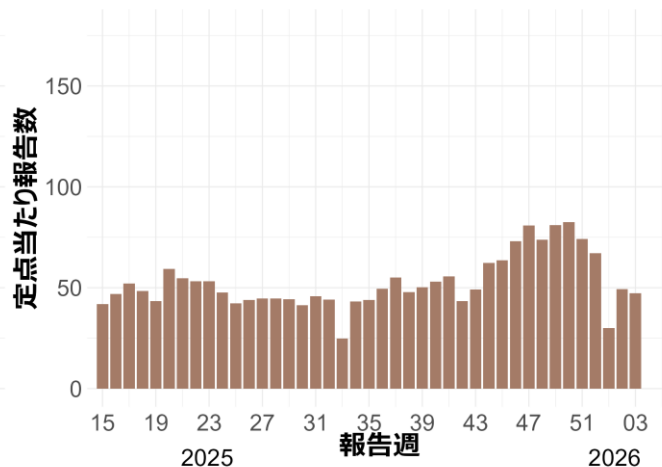
島根県



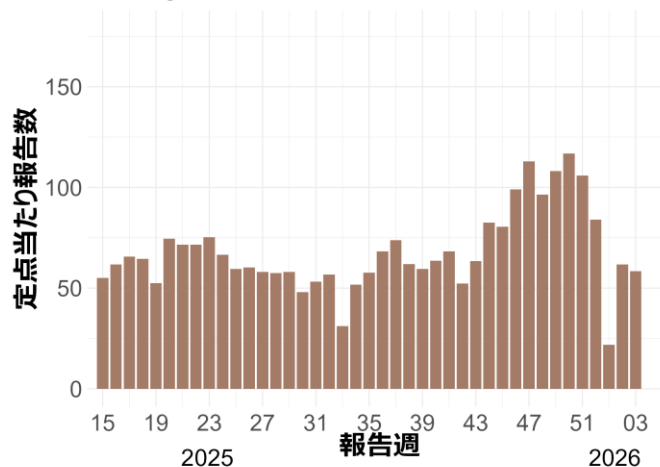
岡山県



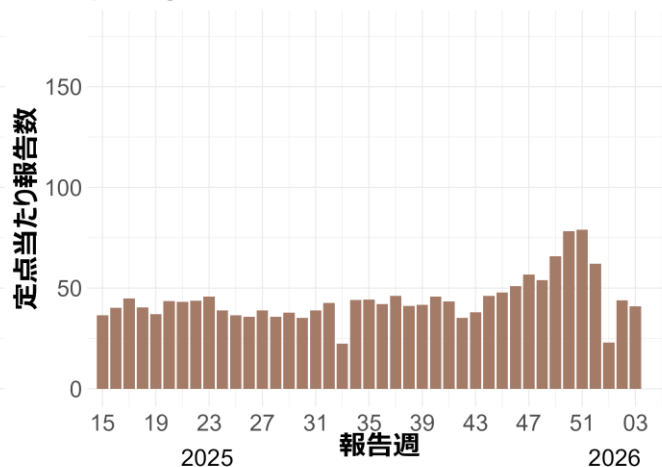
広島県



山口県



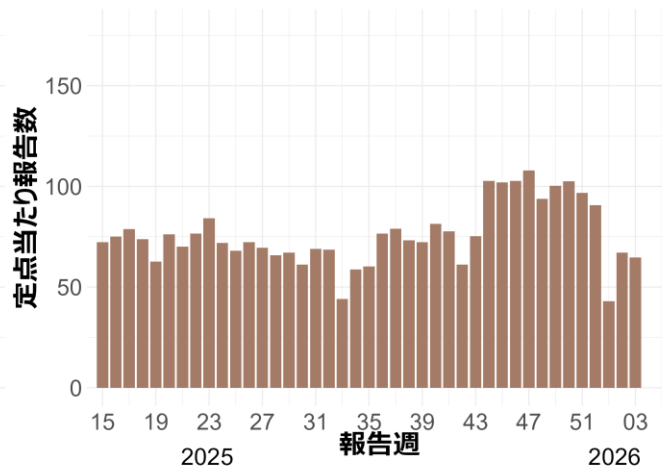
徳島県



香川県



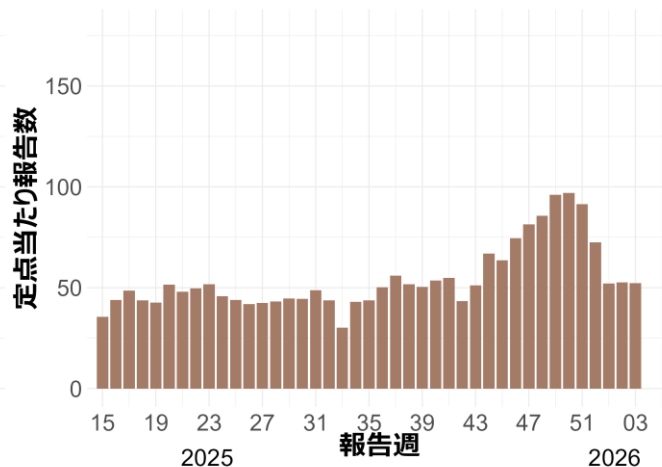
愛媛県



高知県



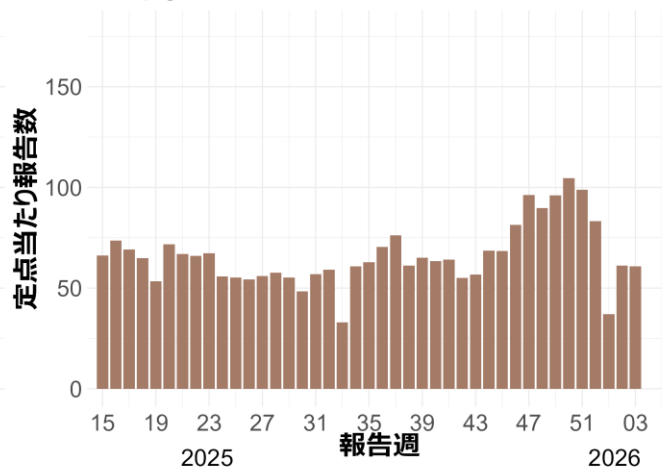
福岡県



佐賀県



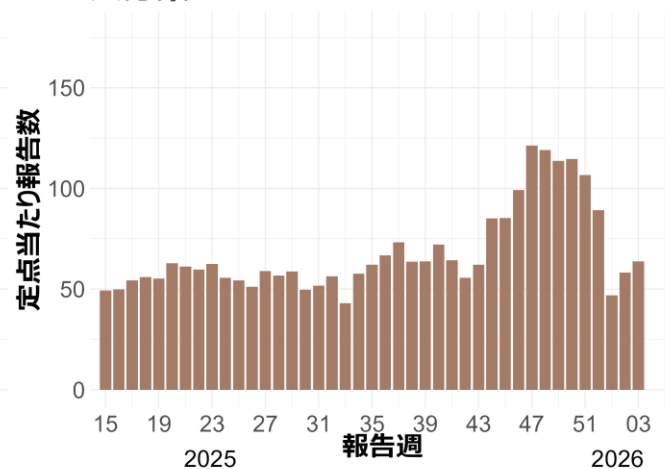
長崎県



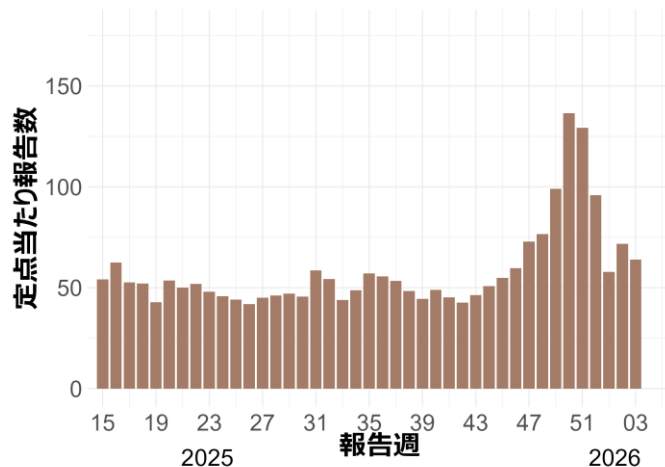
熊本県



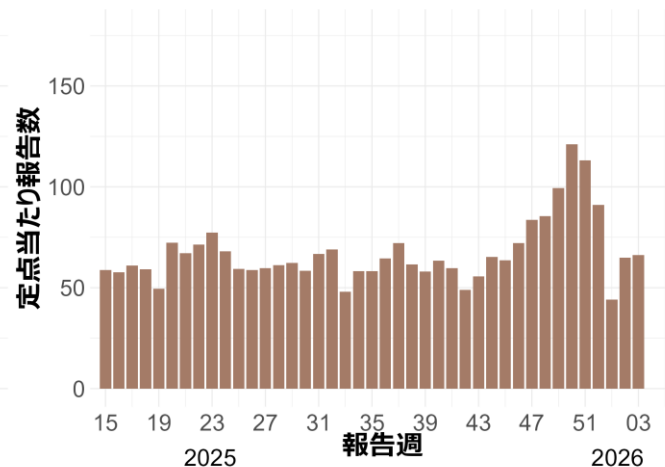
大分県



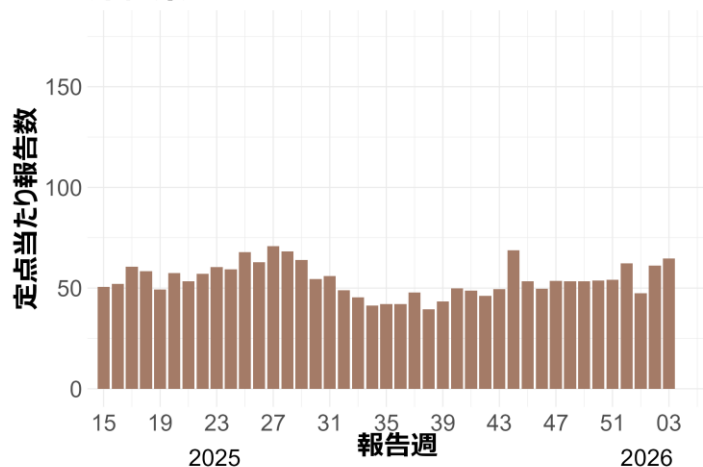
宮崎県



鹿児島県



沖縄県



出典: 感染症発生動向調査(2026 年 1 月 21 日時点, データ範囲: 2025 年 4 月 7 日~2026 年 1 月 18 日)

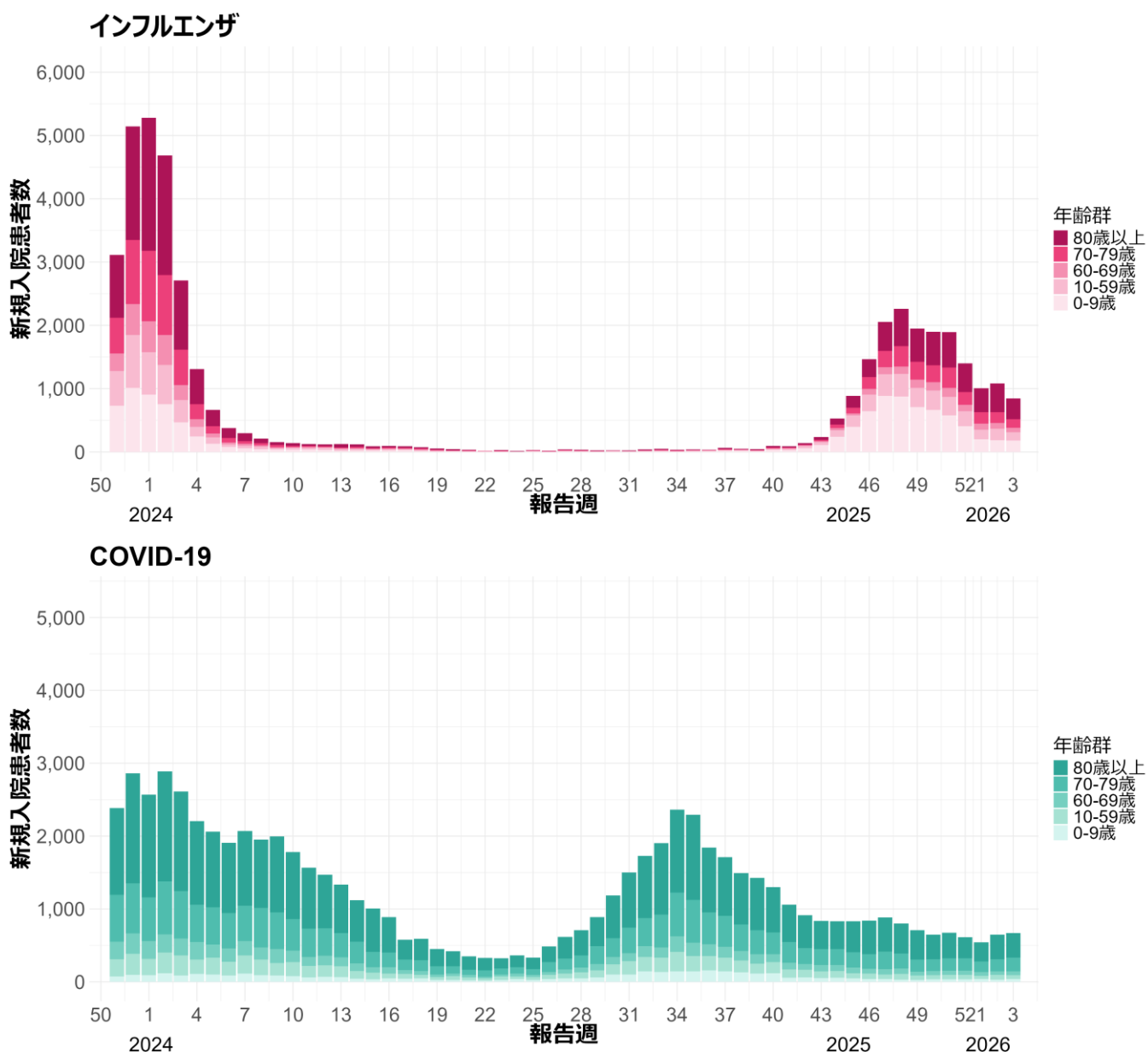
注) 報告数は、当該週の IDWR で還元したデータの再掲である。

1.4. 全国のインフルエンザおよび COVID-19 の新規入院患者数

2026 年第 3 週に基幹定点から報告された、新規入院患者数の推移を図 5 に、年齢群別報告数を表 4 に示す。インフルエンザは 844 例で前週と比較して 237 例減少した。COVID-19 は 670 例で前週と比較して 22 例増加した。

年齢群別でみると、インフルエンザでは 0-9 歳で 182 例、10-59 歳で 130 例、60-69 歳で 72 例、70-79 歳で 134 例、80 歳以上で 326 例であった。COVID-19 では 0-9 歳で 37 例、10-59 歳で 54 例、60-69 歳で 54 例、70-79 歳で 187 例、80 歳以上で 338 例であった。前週と比べてインフルエンザは 0-9 歳では横ばい、10 歳以上では減少した。COVID-19 は 0-9 歳、60-79 歳では増加、10-59 歳では減少、80 歳以上では横ばいであった。

図 5: 基幹定点医療機関から報告されたインフルエンザおよび COVID-19 の新規入院患者数



出典: 感染症発生動向調査(2026 年 1 月 21 日時点, データ範囲: 2024 年 12 月 9 日~2026 年 1 月 18 日)

表 4: 当該週における基幹定点医療機関から報告された新規入院患者数

年齢群	インフルエンザ	COVID-19
0-9 歳	182 (0.97)	37 (1.19)
10-59 歳	130 (0.72)	54 (0.81)
60-69 歳	72 (0.83)	54 (1.12)
70-79 歳	134 (0.77)	187 (1.13)
80 歳以上	326 (0.72)	338 (1.01)
計	844 (0.78)	670 (1.03)

出典: 感染症発生動向調査(2026 年 1 月 21 日時点, データ範囲: 2026 年 1 月 12 日～2026 年 1 月 18 日)

注)カッコ内の数値は前週比であり、前週の報告数は当該週の IDWR で還元したデータを用いた。なお、年齢階級別報告数の詳細については IDWR(定点把握の対象となる 5 類感染症ページ)で還元しているので参照のこと。

注)前週の報告数が 0 であった場合は、前週比の欄に「—」と表記。

2. 病原体サーベイランスの状況

2.1. 全国の病原体別報告数

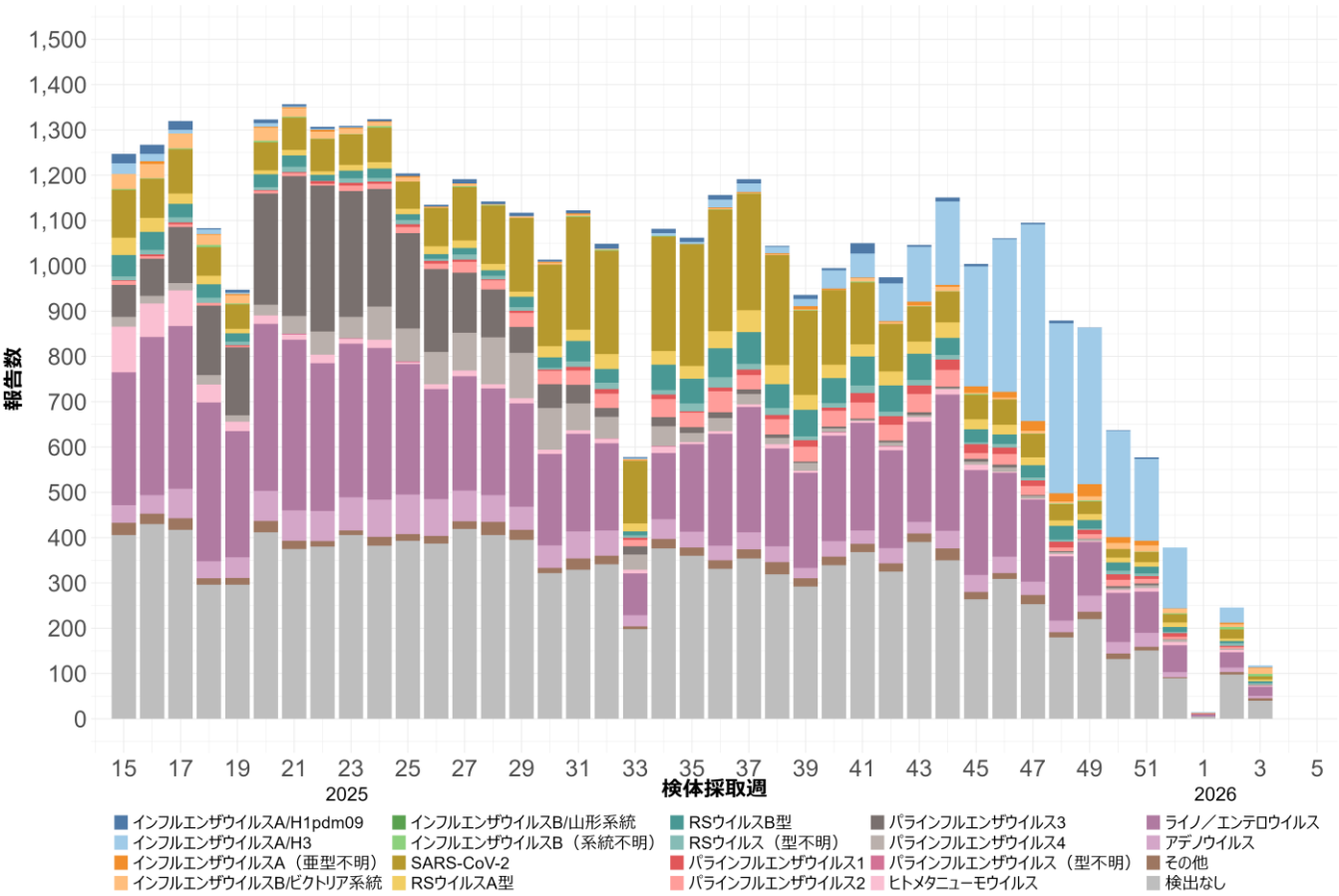
急性呼吸器感染症病原体定点(以下、ARI 病原体定点)で 2026 年第 3 週に採取され、集計時点までに報告された検体数は 111 件であった。そのうちインフルエンザウイルス A 型が 6 件、インフルエンザウイルス B 型が 18 件、SARS-CoV-2 が 7 件、RS ウイルスが 12 件陽性であった(図 6)。

病原体別の陽性率は、インフルエンザウイルス A 型が 5.4%、インフルエンザウイルス B 型が 16.2%、SARS-CoV-2 が 6.3%、RS ウイルスが 10.8%であった(図 7)。インフルエンザウイルス A 型では、A/H3 が 5 件、亜型不明が 1 件、インフルエンザウイルス B 型では、ビクトリア系統が 13 件、系統不明が 5 件であった。

第 50 週(12 月 8 日～12 月 14 日)に採取された検体は概ね結果登録が反映されており、その数は北海道・東北地方では 84 件、関東地方では 140 件、北陸地方では 48 件、東海地方では 41 件、近畿地方では 72 件、中国地方では 106 件、四国地方では 23 件、九州・沖縄地方では 48 件であった。最も多く検

出された病原体は、すべての地域でインフルエンザウイルス A 型であった(図 8)。
 また検体採取週ごとの医療機関における全自動遺伝子解析装置等による検査結果を参考表に示す。第 3 週はインフルエンザウイルス A(亜型不明)が 1 件、インフルエンザウイルス B が 1 件登録され、第 2 週はインフルエンザウイルス A(亜型不明)、インフルエンザウイルス B が新たに追加された。

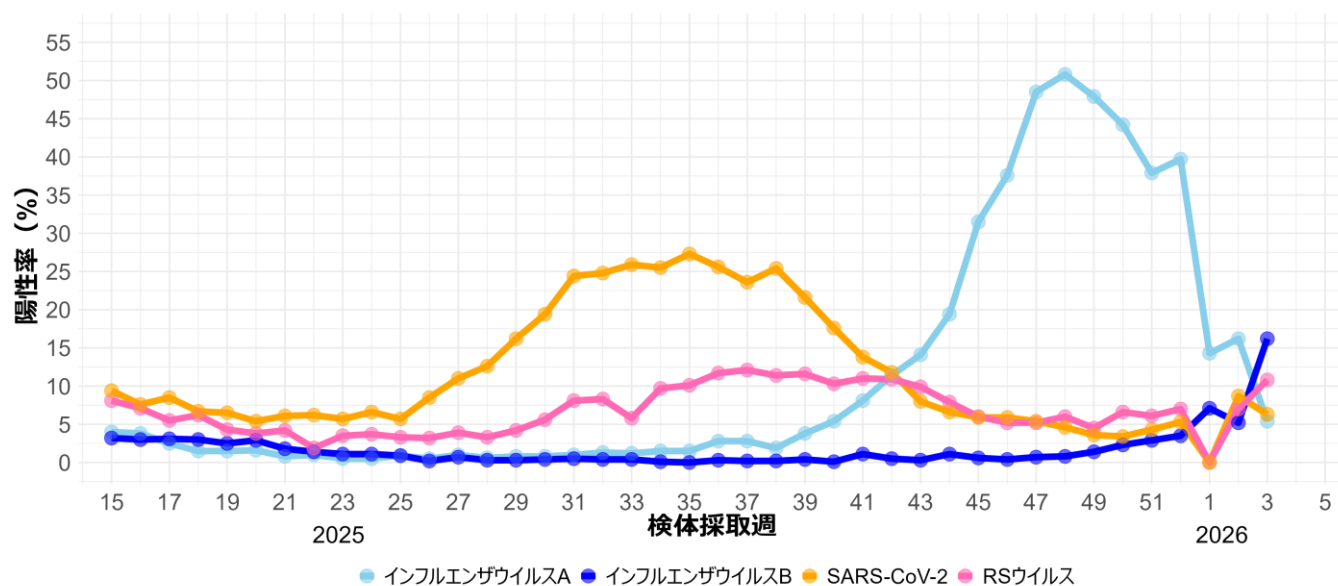
図 6: 検体採取週ごとの病原体別報告数



出典: 感染症発生動向調査(2026 年 1 月 21 日時点, データ範囲: 2025 年 4 月 7 日~2026 年 1 月 18 日)

注)報告週ではなく検体採取週で集計していることに注意が必要である。
 注)集計時点における報告数であるため、過去の週報で掲載された値とは必ずしも一致しないことに注意が必要である。
 注)1 つの検体から複数の病原体が検出された場合は、検出された全ての病原体を計上している。
 注)ライノ/エンテロウイルスは、ライノウイルスまたはエンテロウイルスが検出されたものである。
 注)その他は、凡例に示されている病原体以外が検出されたものである。
 注)検査結果が検出なし、また検査結果の掲載がない週及び地域については、病原体が検出されなかった場合もあるが、検査項目によっては未実施の場合も含まれることに注意が必要である。

図 7: 検体採取週ごとの病原体別陽性率



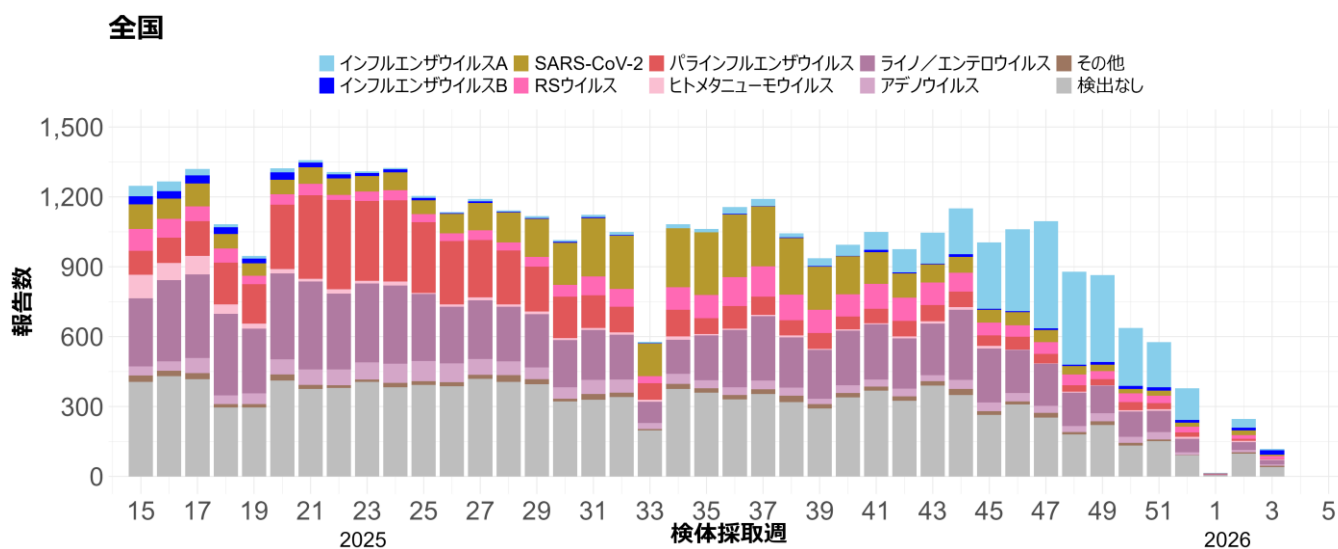
出典: 感染症発生動向調査(2026 年 1 月 21 日時点, データ範囲: 2025 年 4 月 7 日~2026 年 1 月 18 日)

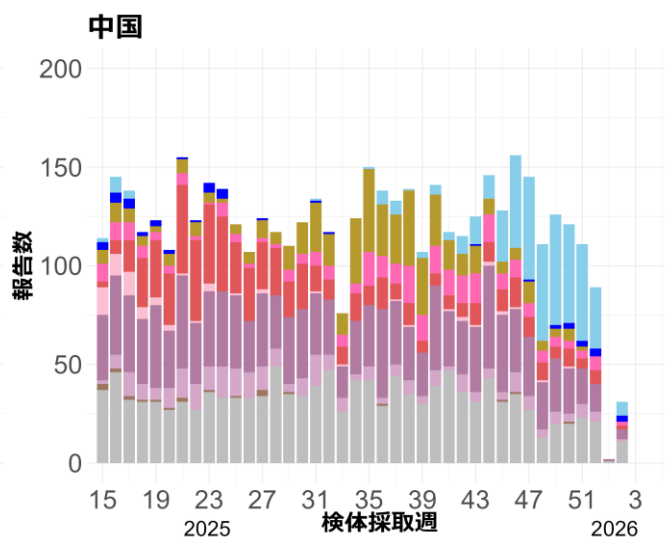
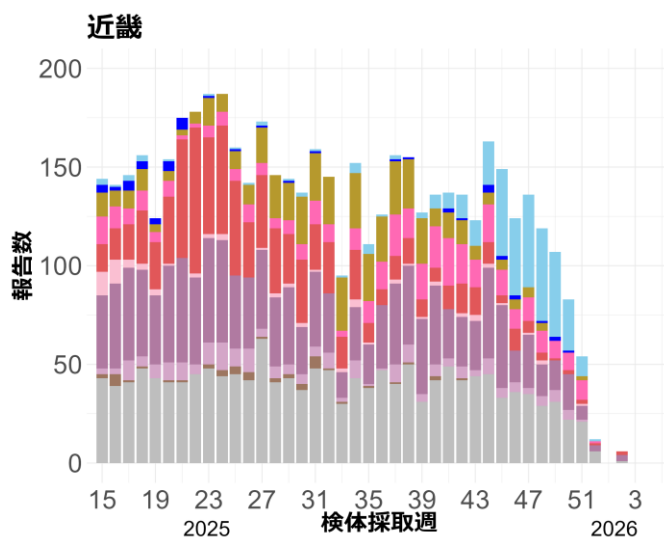
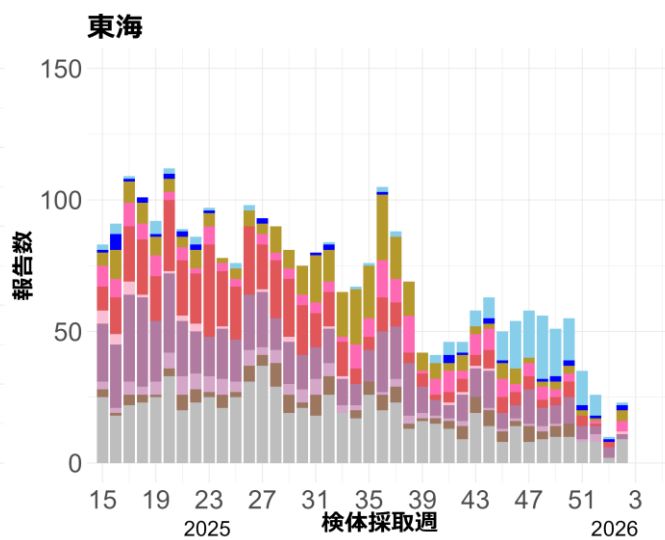
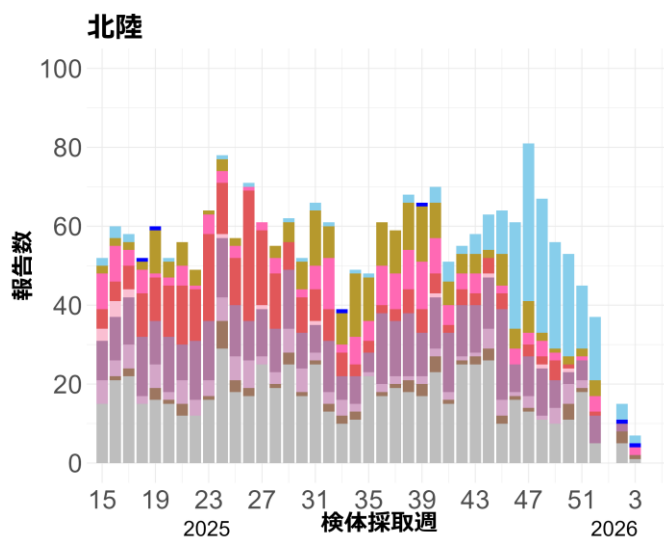
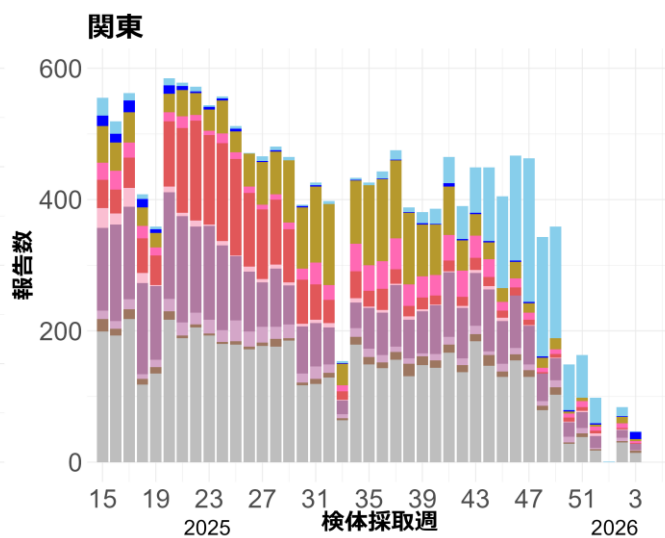
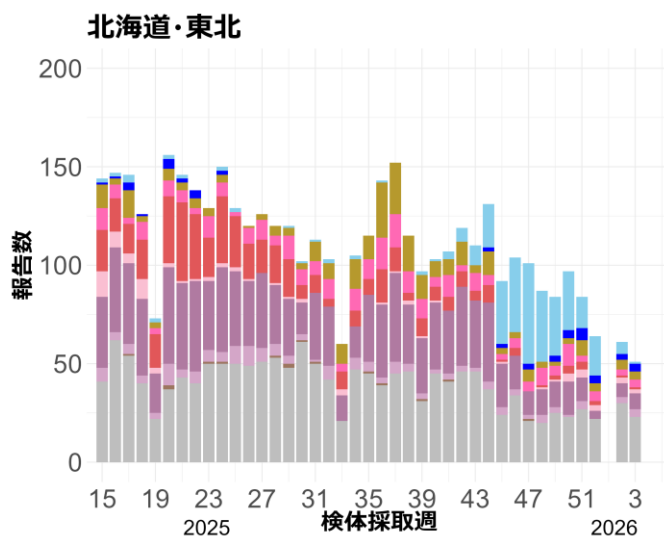
注)陽性率は、対象病原体の検査実施検体数を分母として算出($(\text{陽性数} / \text{検査実施数}) \times 100$)される。

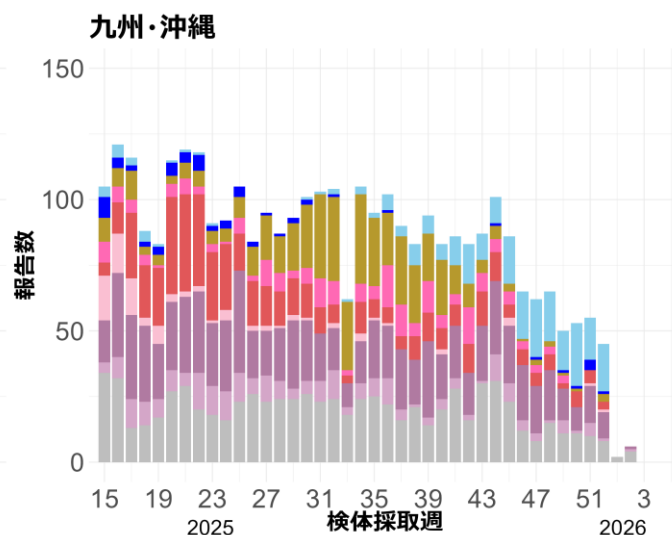
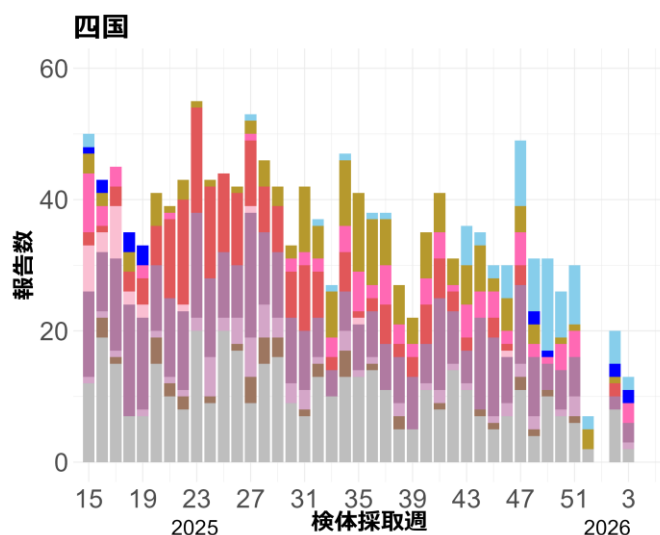
注)報告週ではなく検体採取週で集計していることに注意が必要である。

注)集計時点における報告数であるため、過去の週報で掲載された値とは必ずしも一致しないことに注意が必要である。

図 8: 検体採取週ごとの全国および地域別、病原体別報告数







出典: 感染症発生動向調査(2026 年 1 月 21 日時点, データ範囲: 2025 年 4 月 7 日～2026 年 1 月 18 日)

注) 報告週ではなく検体採取週で集計していることに注意が必要である。

注) 集計時点における報告数であるため、過去の週報で掲載された値とは必ずしも一致しないことに注意が必要である。

注) 1 つの検体から複数の病原体が検出された場合は、検出された全ての病原体を計上している。

注) ライノ／エンテロウイルスは、ライノウイルスまたはエンテロウイルスが検出されたものである。

注) その他は、凡例に示されている病原体以外が検出されたものである。

注) 検査結果が検出なし、また検査結果の掲載がない週及び地域については、病原体が検出されなかった場合もあるが、検査項目によっては未実施の場合も含まれることに注意が必要である。

2.2. SARS-CoV-2 ゲノムサーベイランス

※今週の掲載はありません。

注意事項

本報では、急性呼吸器感染症定点および小児科定点としてあらかじめ指定された医療機関から週単位で報告された患者数を全国および都道府県ごとに集計した数値を用いている。都道府県別あるいは性別・年齢階級別報告数の詳細については感染症発生動向調査週報(IDWR)を参照されたい。なお、本報およびIDWRに掲載されている数値は暫定値であるため、年報での数値とは必ずしも一致しない。

患者サーベイランスの集計には感染症発生動向調査に報告されたデータのうち直近 1 週間は集計日時点のデータを、それ以前は最初の集計時点のデータを再掲している。遅れて報告されたり、修正されたりする場合があるため、集計値は暫定値であることに注意が必要である。

週ごとの感染症の動向は定点当たり報告数を用いて評価し、年齢群別の動向は報告数を用いて評価している。

病原体サーベイランスの集計では、全ての週に関して集計時点のデータを掲載している。自治体/地方衛生研究所によって集められた検体に対する病原体検査項目が異なることがある。また、自治体/地方衛生研究所によって検査実施および報告に要する日数が異なるため、検体採取週における病原体検出数は遅れて報告される、あるいは修正されることがあり集計値は暫定値であることに注意が必要である。この点を考慮して地域別の検出病原体数などの集計は、5 週前の数字を用いて評価している。

急性呼吸器感染症定点は、内科定点に比べ小児科定点が多く選択されている。定点から報告されたインフルエンザ、COVID-19 症例に占める各年齢群の割合については、小児に偏る可能性がある。一方、経時的な流行全体の傾向(トレンド)と水準(レベル)の把握、年齢群ごとの傾向と水準の評価の観点においては影響を与えない。

年末・年始(第 52 週～第 1 週頃)、ゴールデンウィーク(第 18 週頃)、お盆(第 33 週頃)、シルバーウィーク(第 39 週頃)等の週では、報告数が減少する傾向があり解釈には注意が必要である。なお、祝日、休日の並び等によって該当する週は年によって異なる。

従来の警報・注意報は保健所ごとの報告数を用いて検討・設計されており、定点数の設計および定点医療機関が変更された 2025 年 4 月 7 日以降の患者サーベイランスに直ちに当てはめることはできない。急性呼吸器感染症定点の運用時でのインフルエンザをはじめとする各感染症の警報・注意報といったアラートについてはデータの蓄積の上で検討を進める。なお、このような限界を理解したうえで従前の警報・注意報をコミュニケーションとして使用することを妨げるものではない。

急性呼吸器感染サーベイランスは 2025 年 4 月から開始されており、報告数のレベルの評価にはデータの蓄積を要する。その動向の推移を注視していく必要がある。

地域の定義

北海道・東北地方: 北海道、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県
関東地方: 茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県、長野県
北陸地方: 新潟県、富山県、石川県、福井県
東海地方: 岐阜県、静岡県、愛知県、三重県
近畿地方: 滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県
中国地方: 鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県
四国地方: 徳島県、香川県、愛媛県、高知県
九州・沖縄地方: 福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

参考サイト

●感染症発生動向調査週報(IDWR)ページ

<https://id-info.jihs.go.jp/surveillance/idwr/index.html>

●病原微生物検出情報(IASR)ページ

<https://id-info.jihs.go.jp/surveillance/iasr/index.html>

●急性呼吸器感染症サーベイランスの各システムにおける報告例の年齢群別分布の検討、2025 年第 15～26 週

<https://id-info.jihs.go.jp/surveillance/iasr/pathogens/vol46/549/549d01.html>

●国立健康危機管理研究機構 国立感染症研究所 感染症情報提供サイト

<https://id-info.jihs.go.jp/>

・インフルエンザ

<https://id-info.jihs.go.jp/diseases/a/influenza/index.html>

・新型コロナウイルス感染症

<https://id-info.jihs.go.jp/infectious-diseases/covid-19/index.html>

・RS ウイルス感染症

<https://id-info.jihs.go.jp/diseases/alphabet/rs/010/rs-intro.html>

・咽頭結膜熱

<https://id-info.jihs.go.jp/diseases/a/adenovirus/index.html>

・ヘルパンギーナ

<https://id-info.jihs.go.jp/diseases/ha/herpangina/index.html>

●厚生労働省 急性呼吸器感染症(ARI)

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/ari.html>

・急性呼吸器感染症(ARI)サーベイランスに係る具体的な方針について (PDF: 1096KB)

<https://www.mhlw.go.jp/content/10906000/001272561.pdf>

・急性呼吸器感染症に関する特定感染症予防指針(令和七年厚生労働省告示第二百九十六号) (PDF: 292KB)

<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/001595583.pdf>

・インフルエンザ(総合ページ)

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/infuenza/index.html

・新型コロナウイルス感染症について

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708_00001.html

・RS ウイルス感染症 Q&A(令和6年5月 31 日改訂)

https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/rs_qa.html

・咽頭結膜熱

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/pcf.html

・ヘルパンギーナ

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/herpangina.html

●新型コロナウイルスのゲノムサーベイランス(検疫検体:入国者検疫検体を含む)について

<https://id-info.jihs.go.jp/surveillance/iasr/45/532/article/030/index.html>

●SARS-CoV-2 変異株について

<https://id-info.jihs.go.jp/diseases/sa/covid-19/180/flu2-1-1.html>

●都道府県番号について (PDF: 68KB)

<https://www.mhlw.go.jp/topics/2007/07/dl/tp0727-1d.pdf>

参考 1: 検体採取週ごとの全自動遺伝子解析装置等による検査結果

全自動遺伝子解析装置を設置している医療機関における病原体検査の結果をモニタリングするために、任意の医療機関の協力により集められた検査結果である。

病原体	第 50 週	第 51 週	第 52 週	第 1 週	第 2 週	第 3 週
インフルエンザウイルス A/H1	0	1	0	0	0	0
インフルエンザウイルス A/H1-2009	0	0	0	0	0	0
インフルエンザウイルス A/H3	2	3	3	0	0	0
インフルエンザウイルス A(亜型不明)	10	3	5	0	3	1
インフルエンザウイルス B	1	3	0	0	1	1
SARS-CoV-2	0	2	2	0	3	0
RS ウイルス	2	3	2	0	2	0
パラインフルエンザウイルス 1	0	0	0	2	0	0
パラインフルエンザウイルス 2	0	1	0	0	0	0
パラインフルエンザウイルス 3	0	0	0	0	0	0
パラインフルエンザウイルス 4	0	1	1	0	0	0
パラインフルエンザウイルス(型不明)	1	0	0	0	0	0
ヒトライノウイルス／エンテロウイルス	6	9	6	4	0	0
ヒトメタニューモウイルス	0	0	0	0	0	0
アデノウイルス	2	1	2	0	0	0
コロナウイルス HKU1	0	0	0	0	0	0
コロナウイルス NL63	0	1	0	0	0	0
コロナウイルス 229E	0	0	0	0	0	0
コロナウイルス OC43	0	0	0	0	0	0
百日咳菌	0	0	0	0	0	0
パラ百日咳菌	0	0	0	0	0	0
クラミジア・ニューモニエ	0	0	0	0	0	0
マイコプラズマ・ニューモニエ	1	3	0	0	0	0

出典: 感染症発生動向調査(2026 年 1 月 21 日時点, データ範囲: 2025 年 12 月 8 日～2026 年 1 月 18 日)

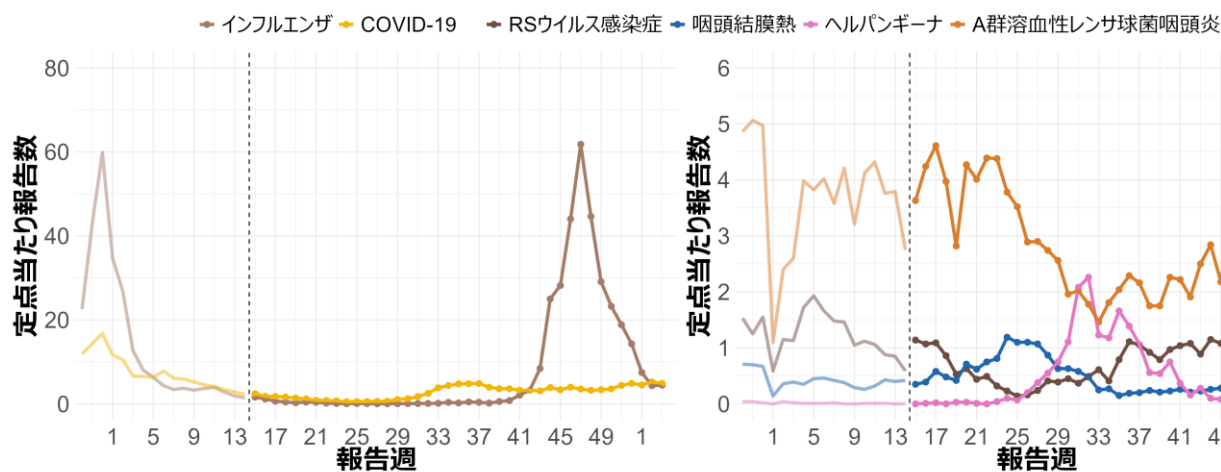
注)医療機関からの任意の協力による報告であるため報告数は参考値である。第 50 週から第 3 週にかけてご協力いただいた医療機関は、18 医療機関である。

注)ライノ／エンテロウイルスは、ライノウイルスまたはエンテロウイルスが検出されたものである。

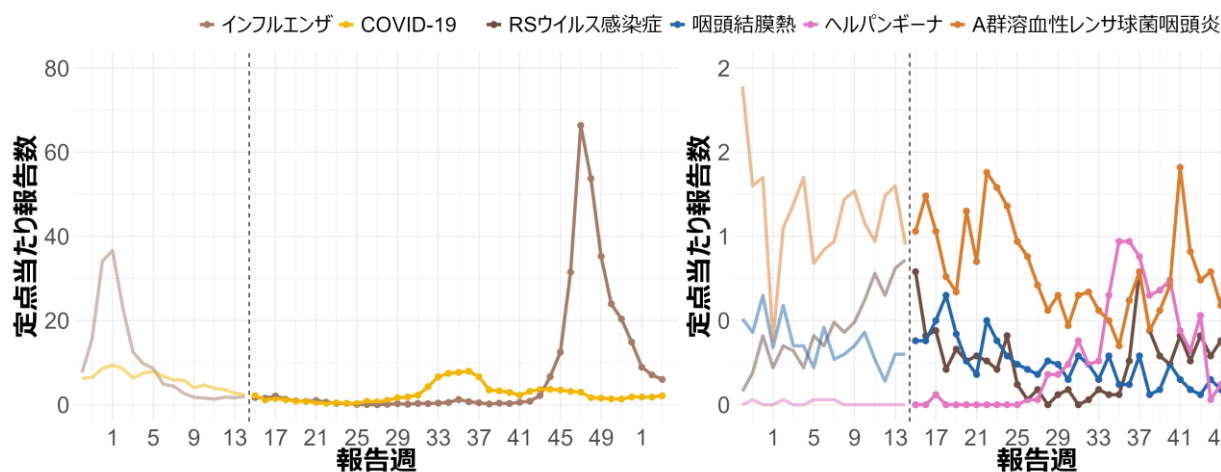
注)表記が「cov」または「flu」のみであるものについては、本表の集計対象から除外しています。

参考 2: 各感染症の週ごとの都道府県別定点当たり報告数

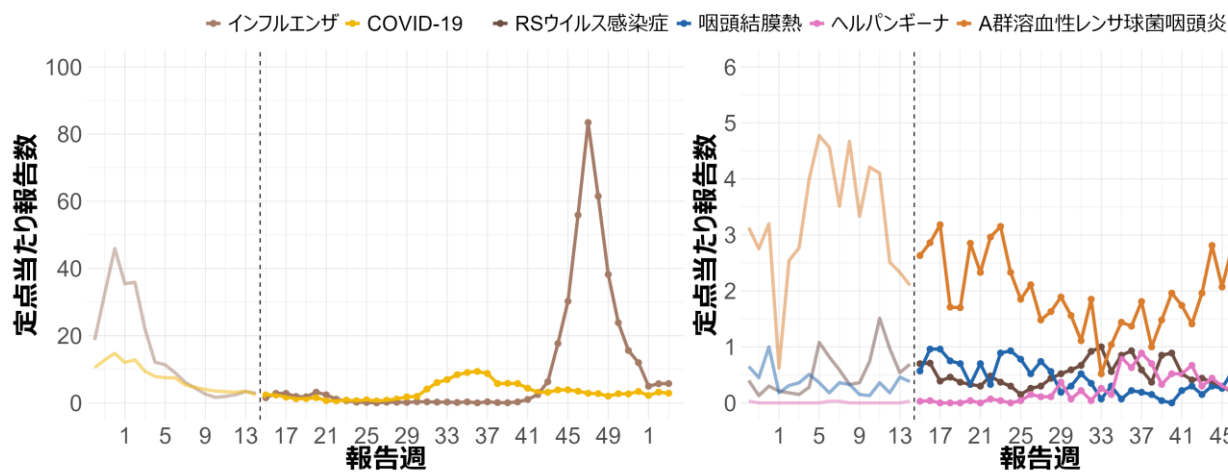
北海道



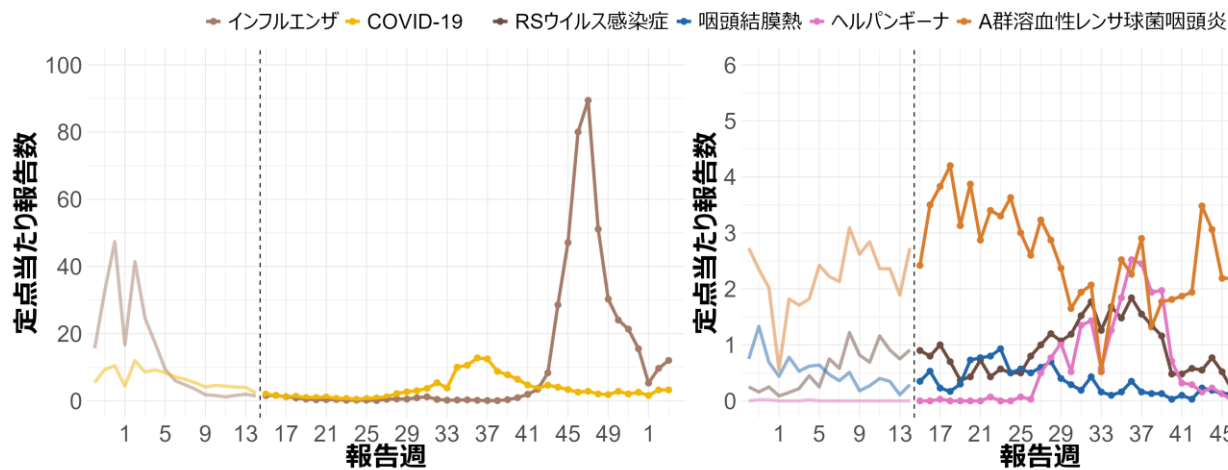
青森県



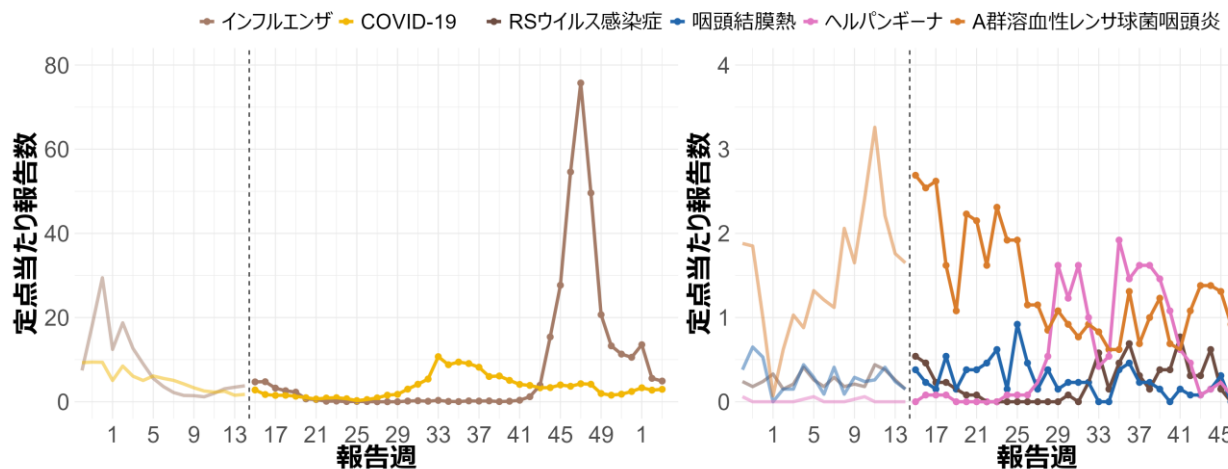
岩手県



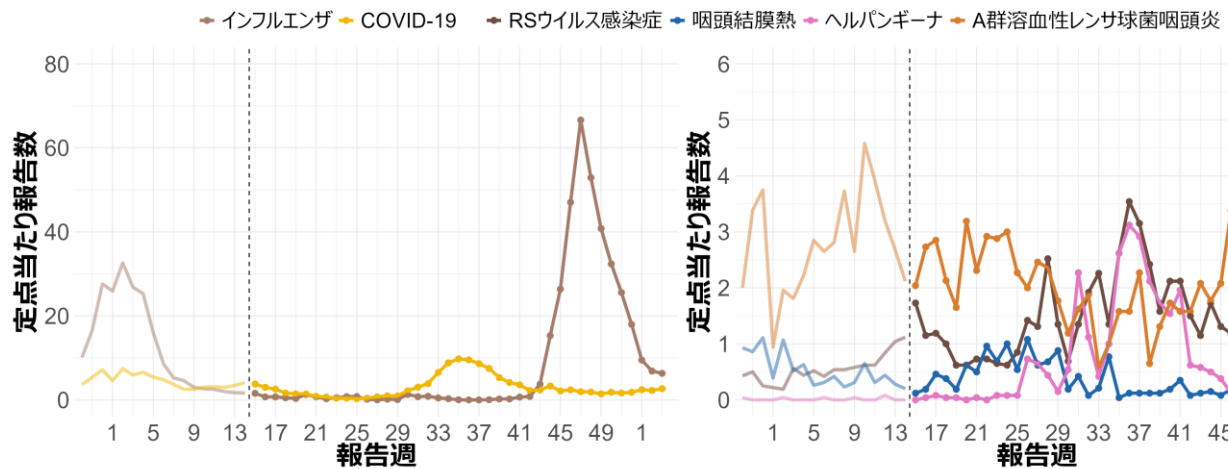
宮城県



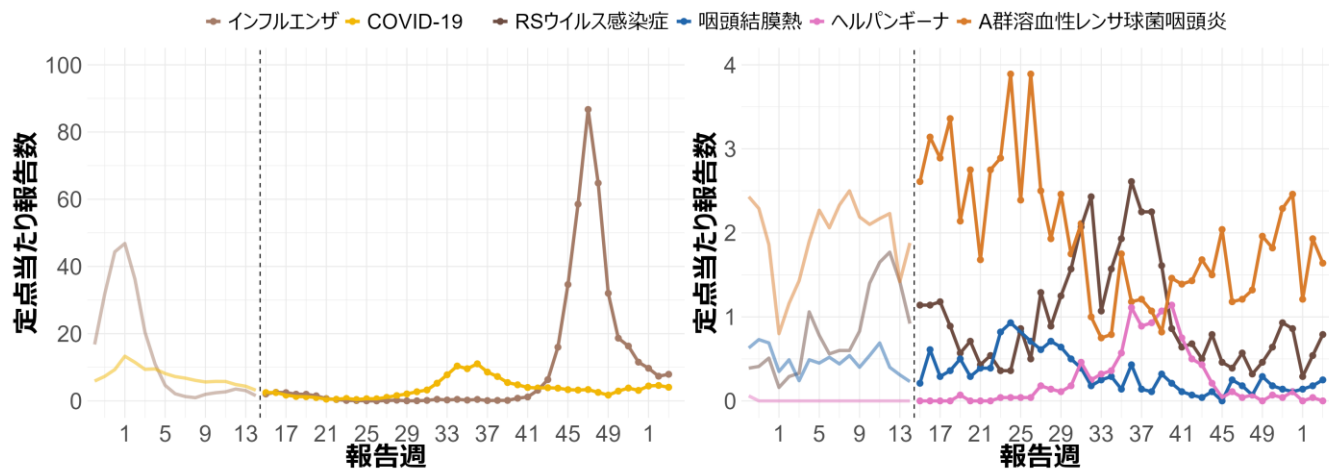
秋田県



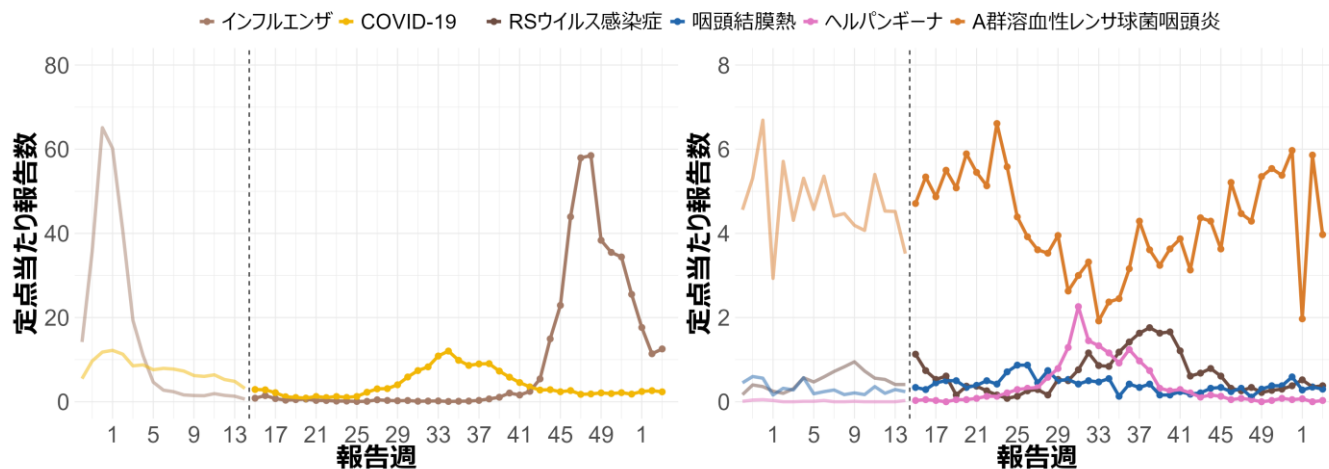
山形県



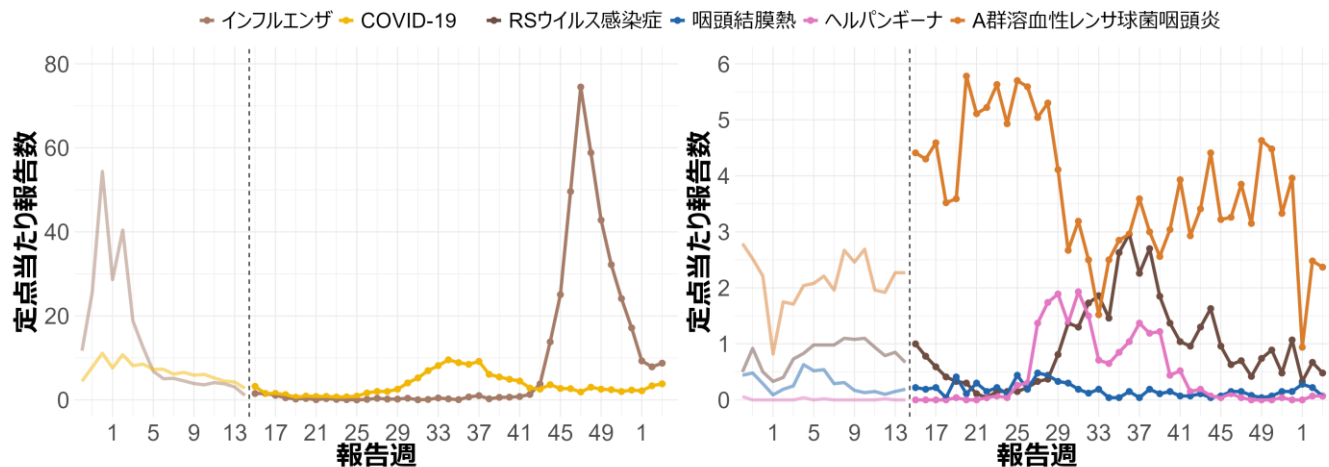
福島県



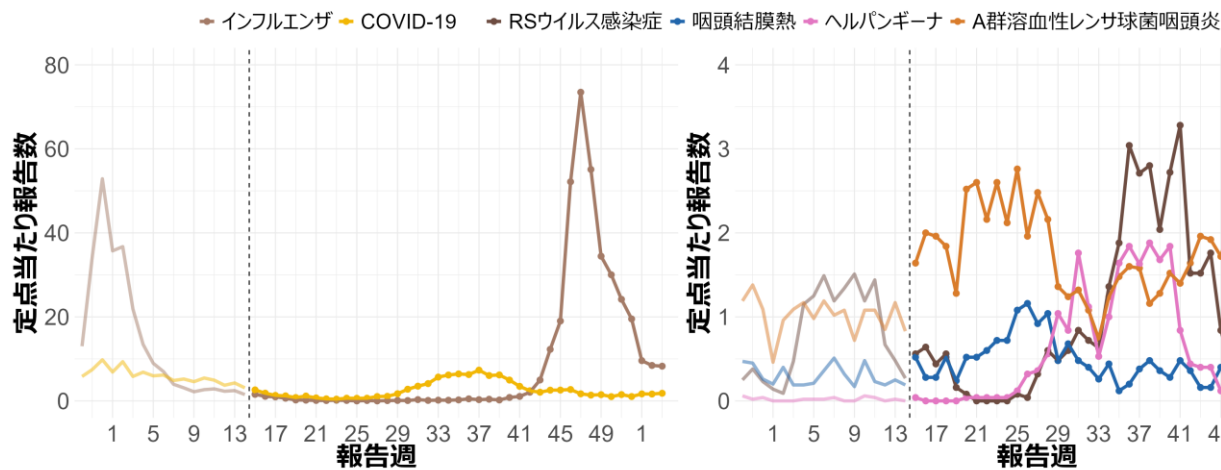
茨城県



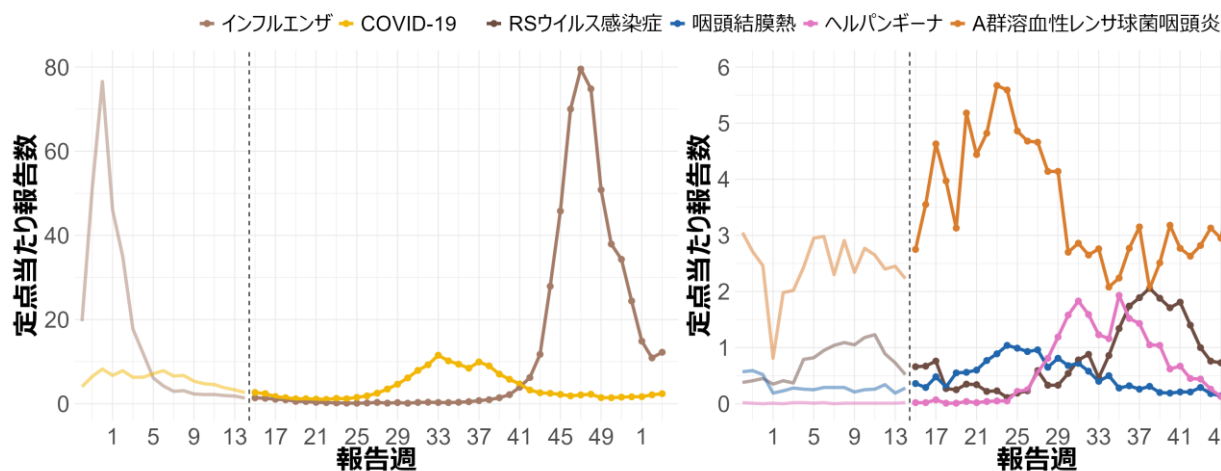
栃木県



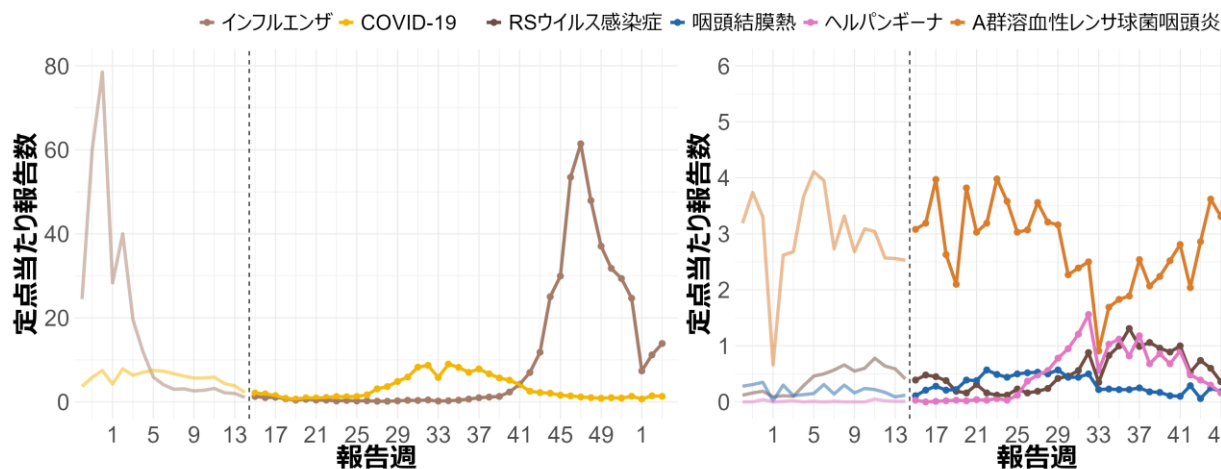
群馬県



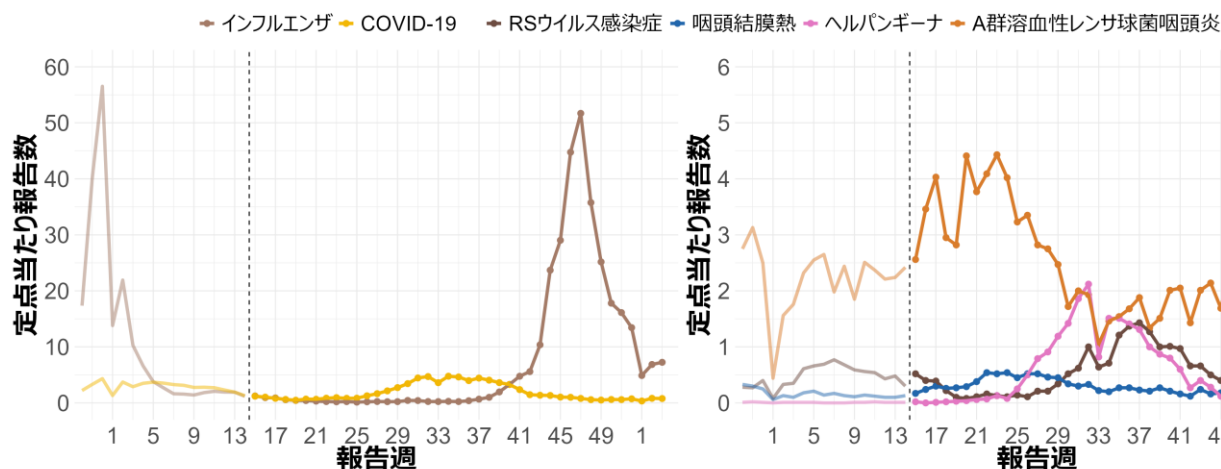
埼玉県



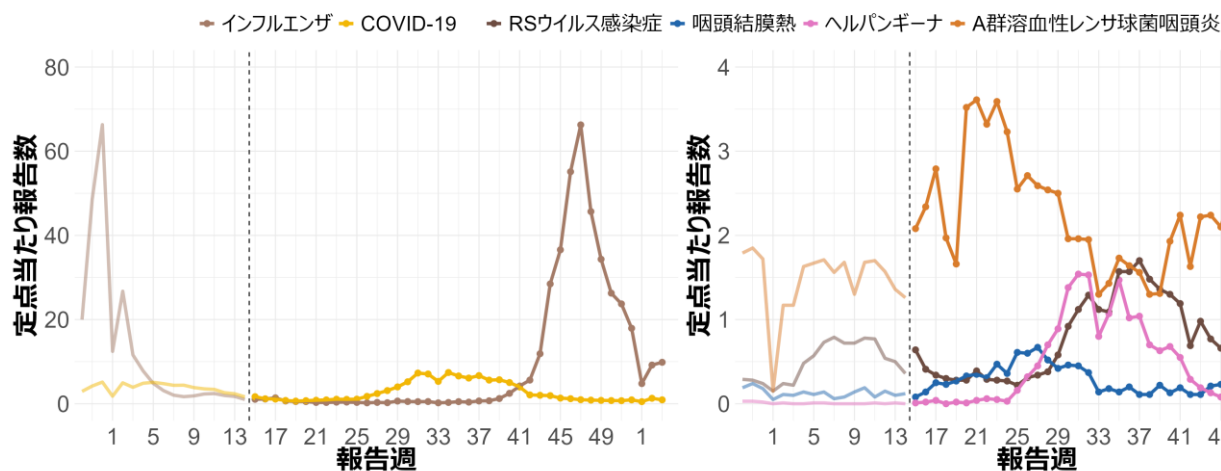
千葉県



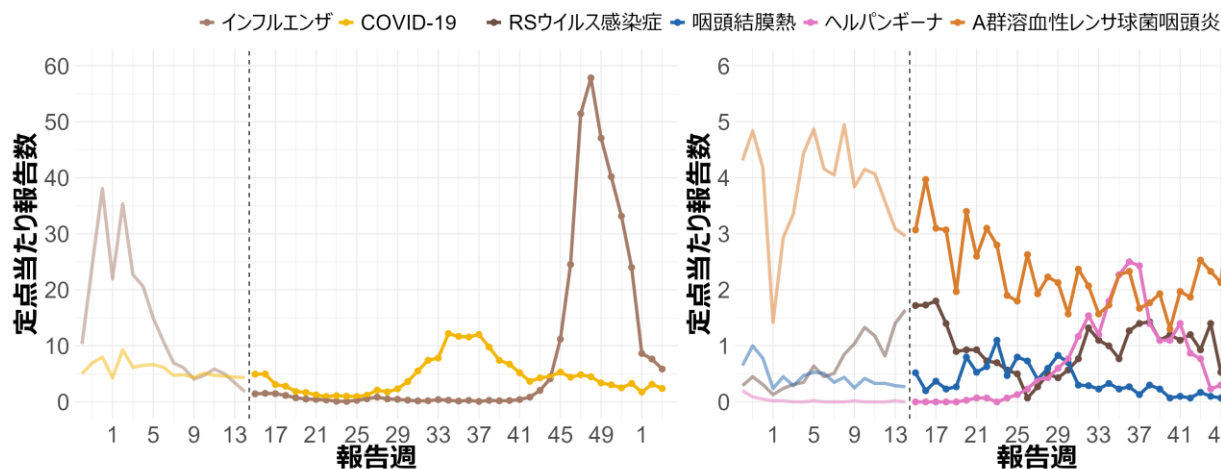
東京都



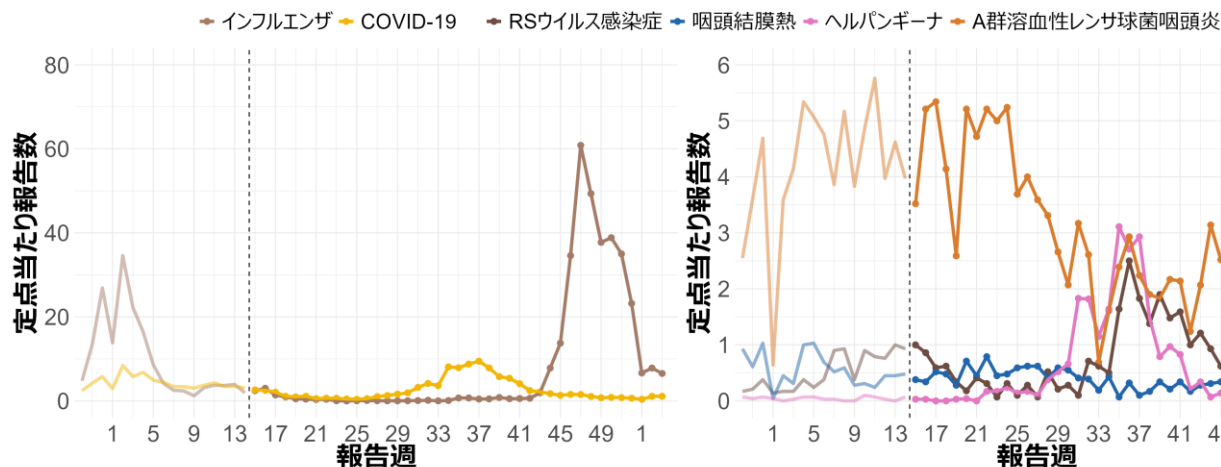
神奈川県



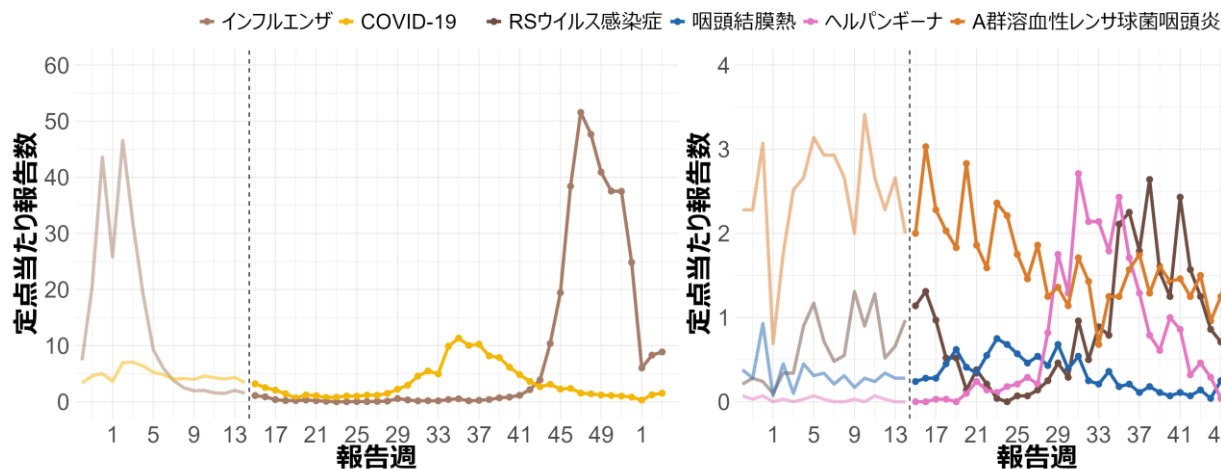
新潟県



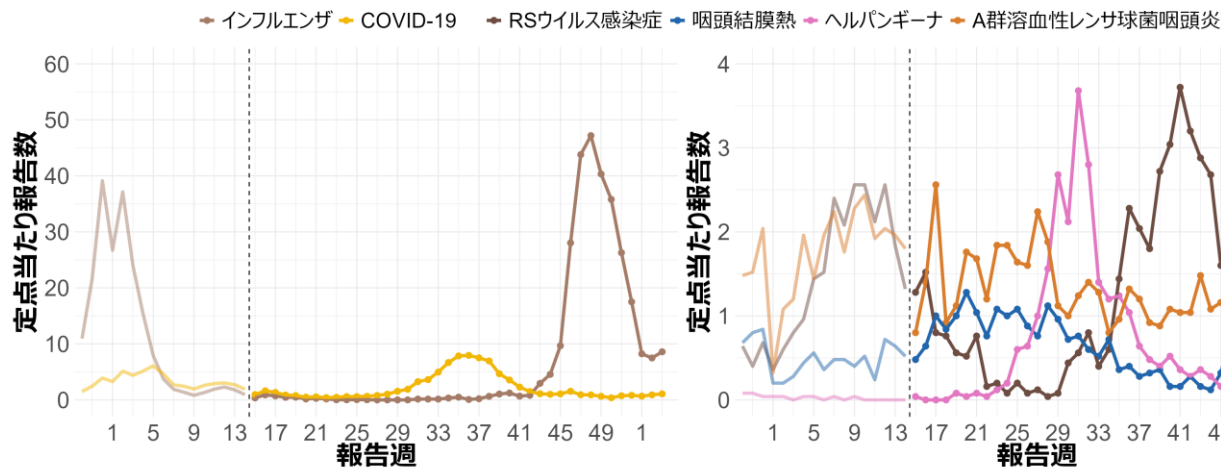
富山県



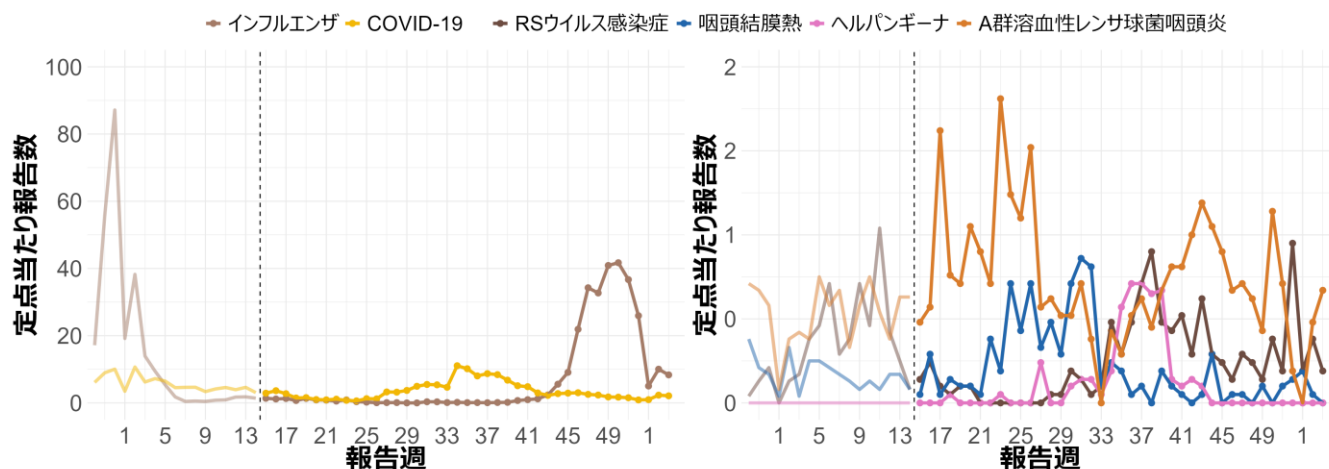
石川県



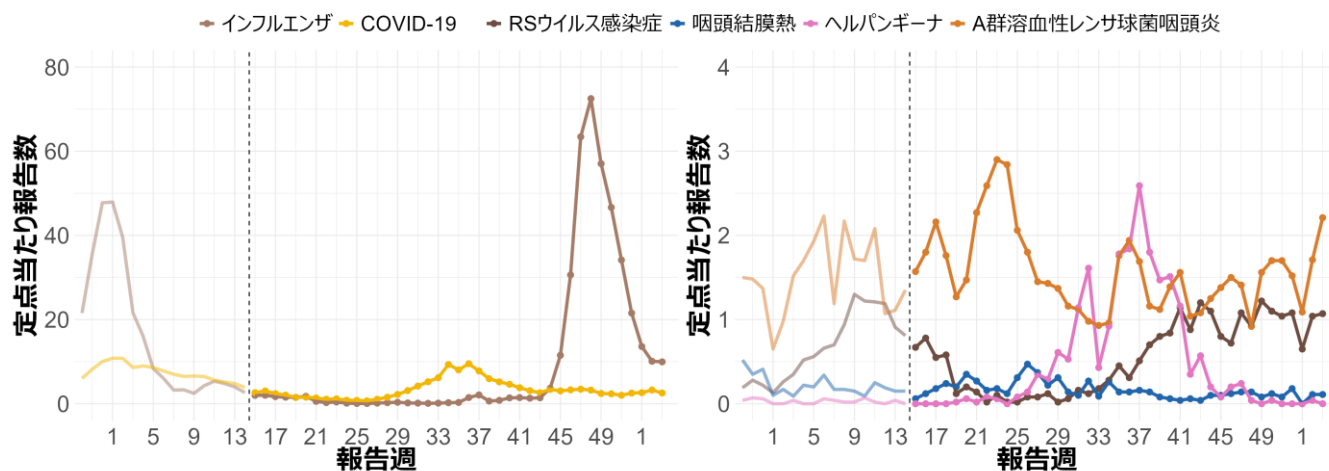
福井県



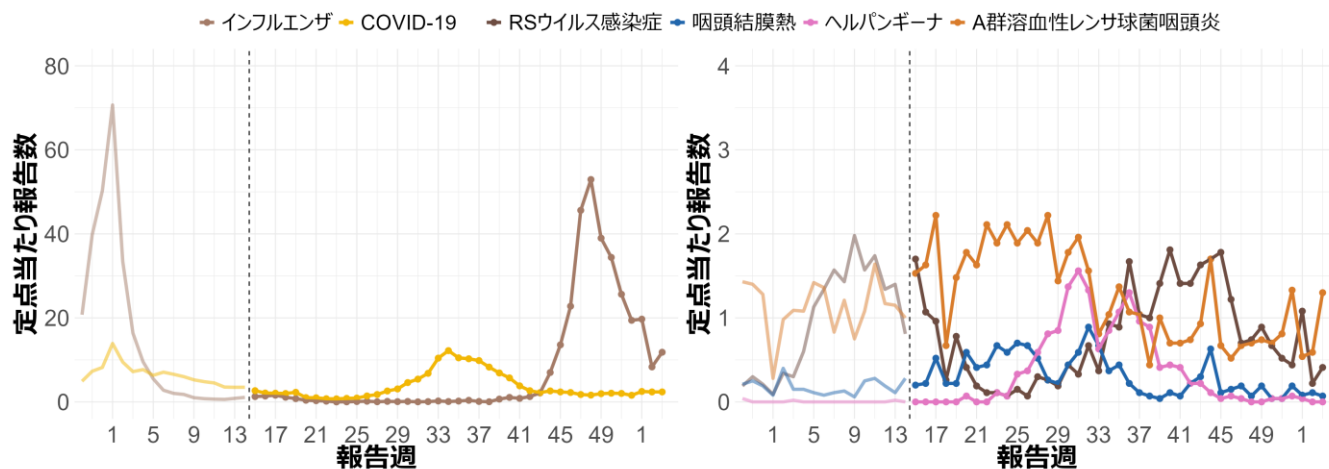
山梨県



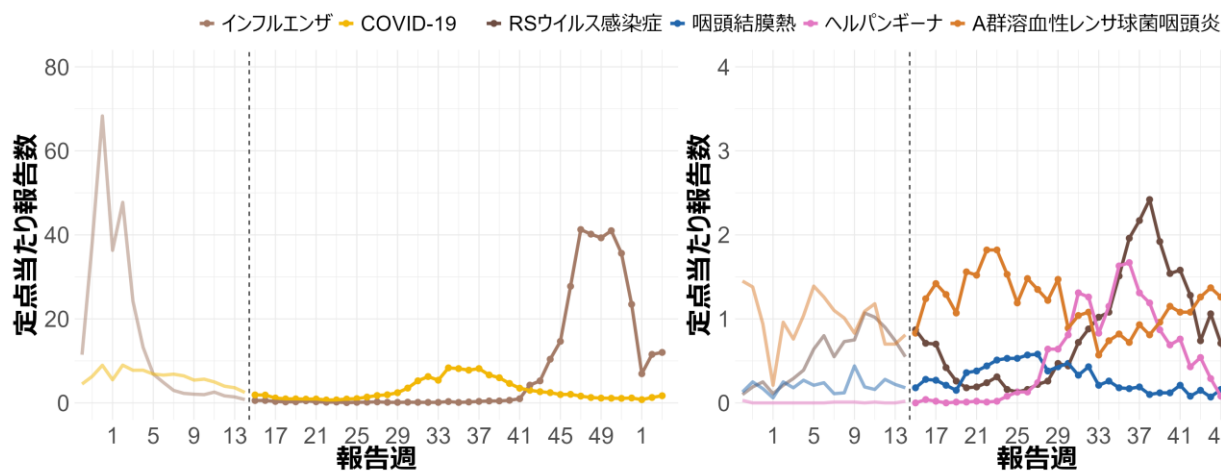
長野県



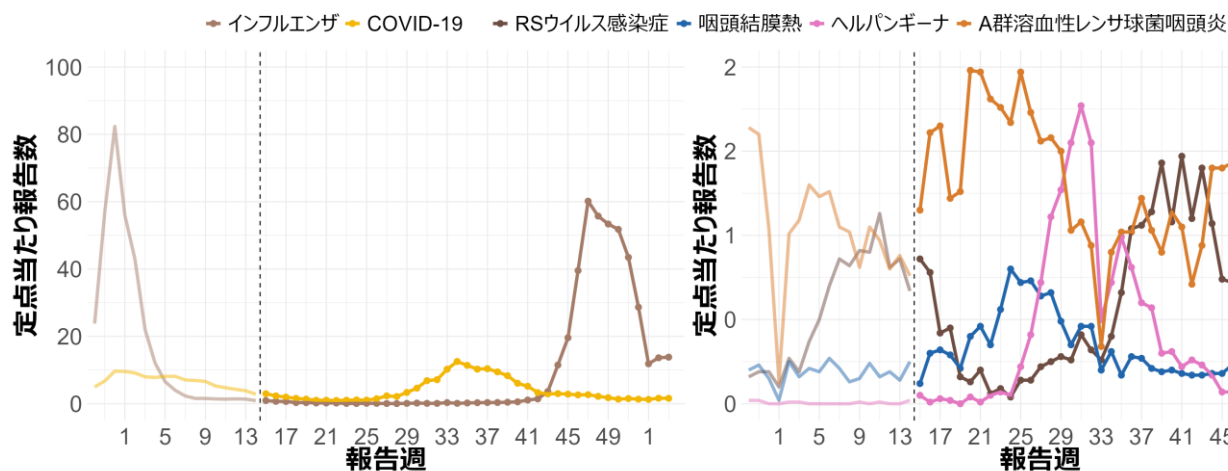
岐阜県



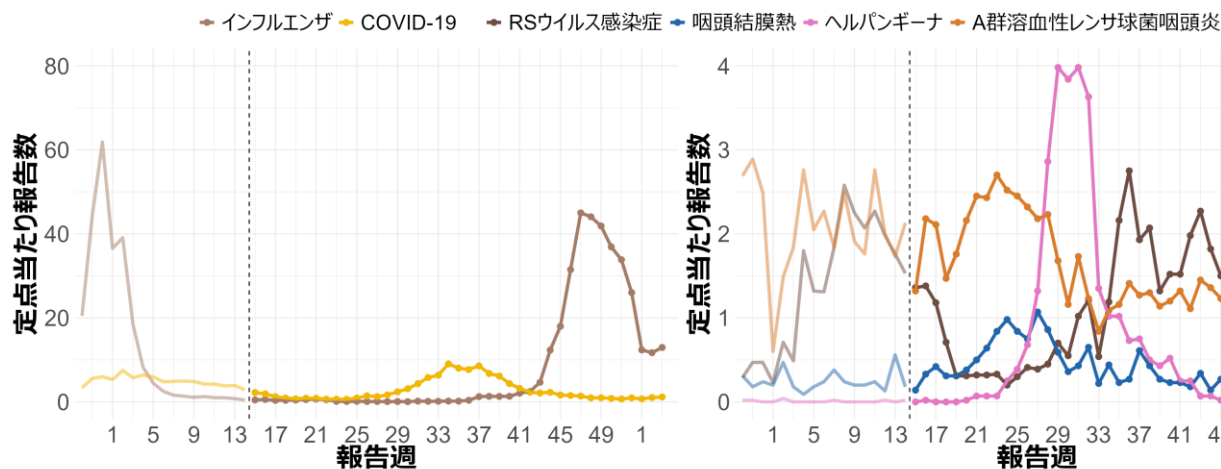
静岡県



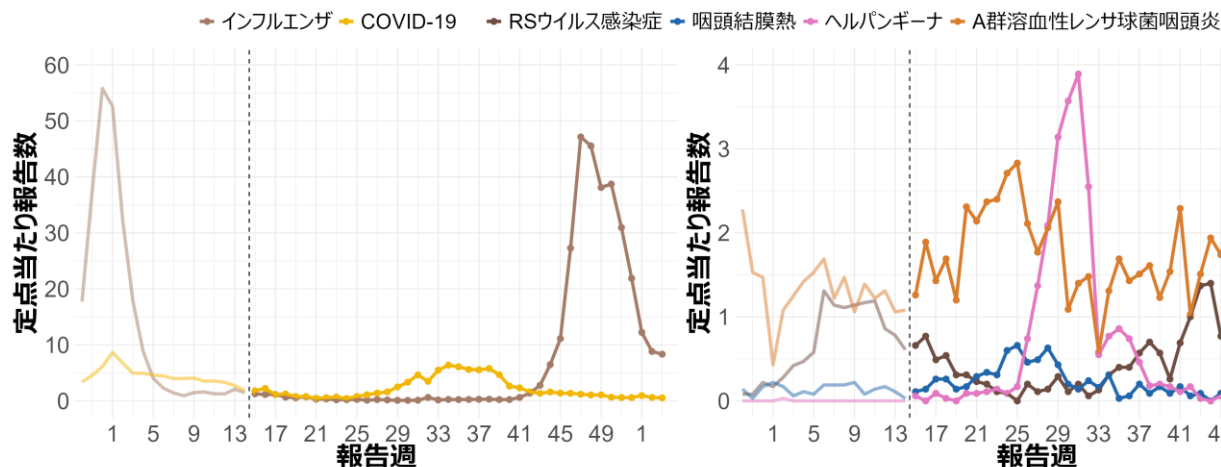
愛知県



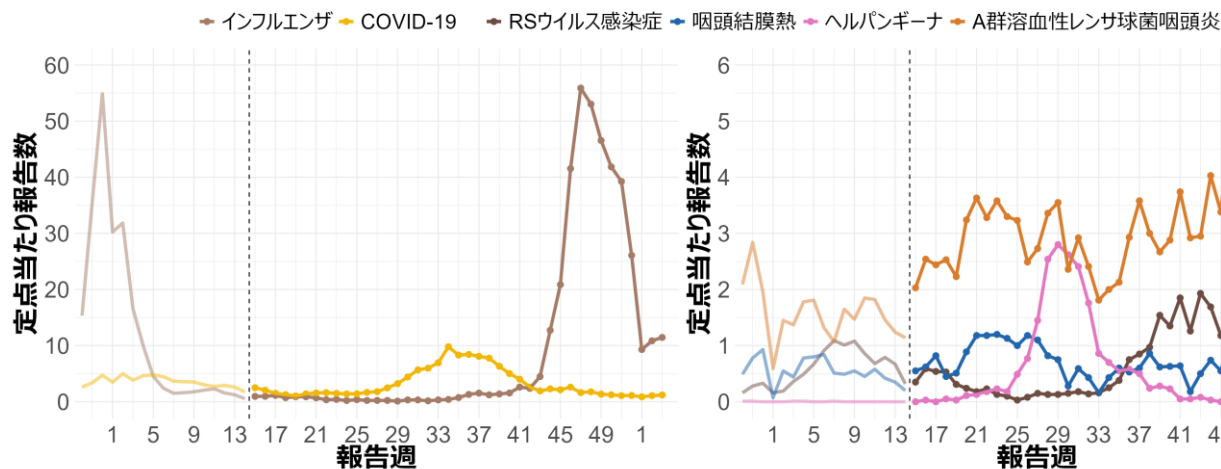
三重県



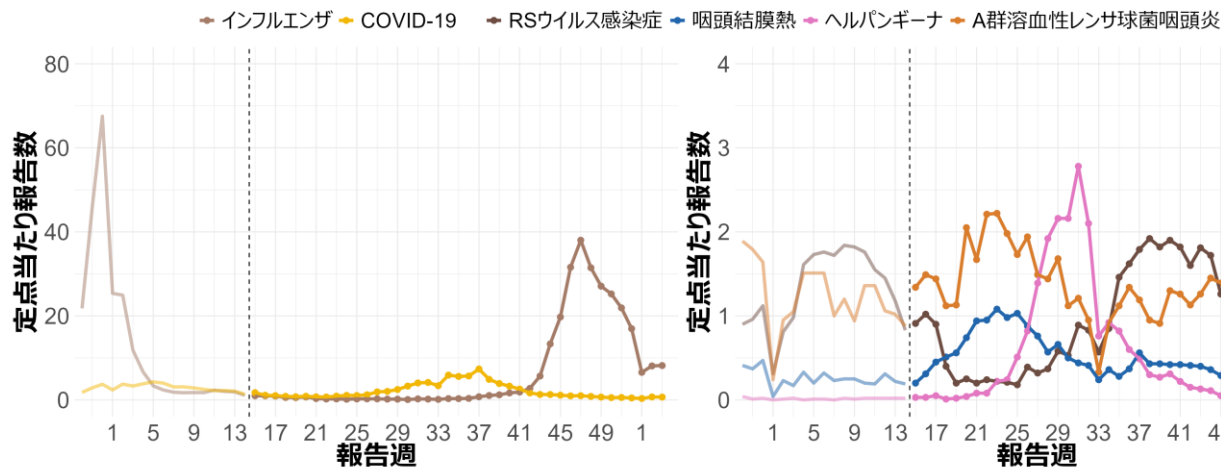
滋賀県



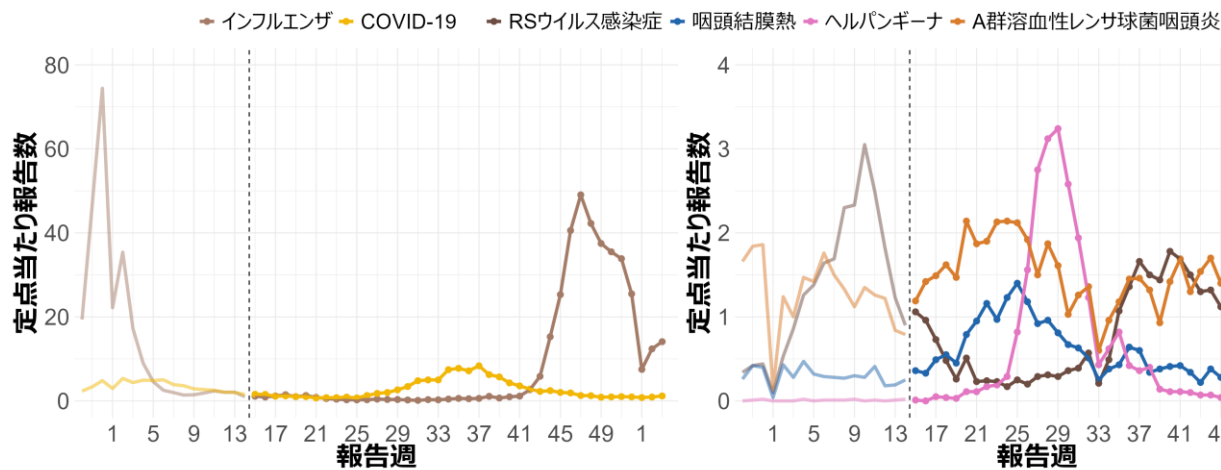
京都府



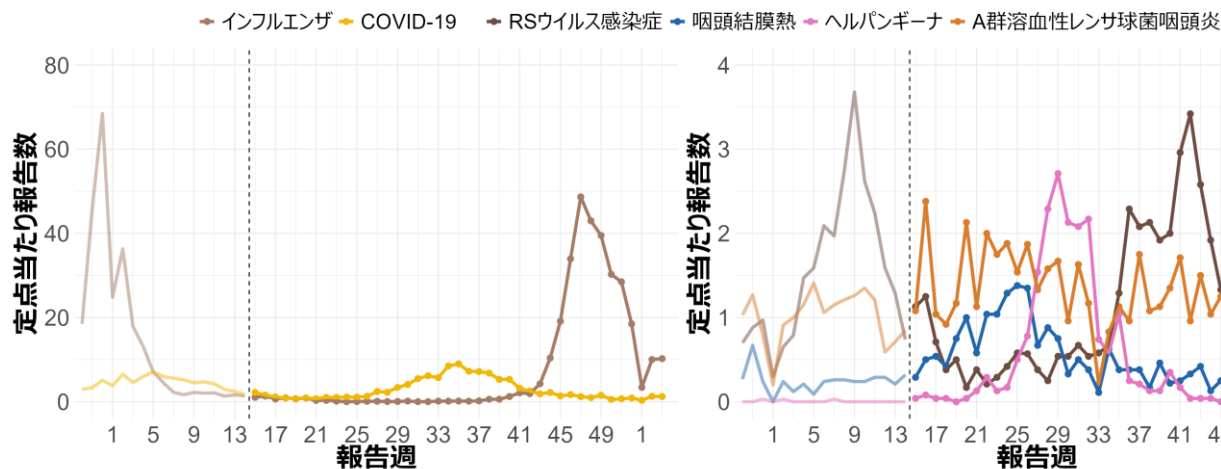
大阪府



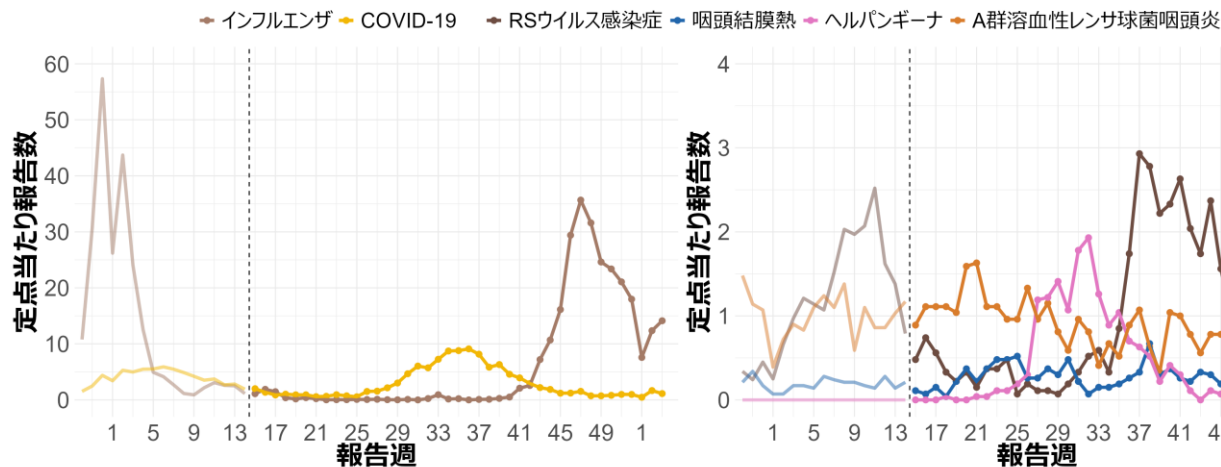
兵庫県



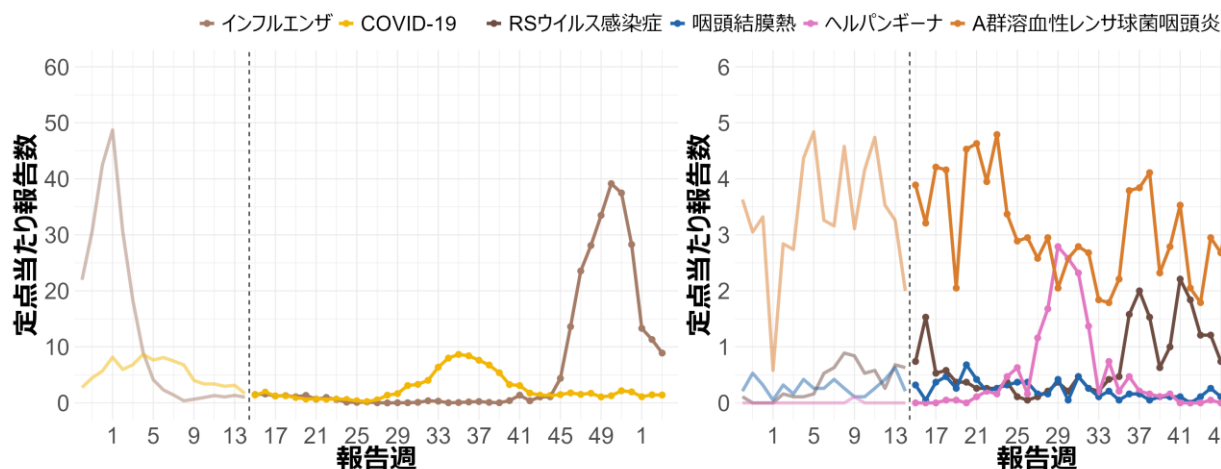
奈良県



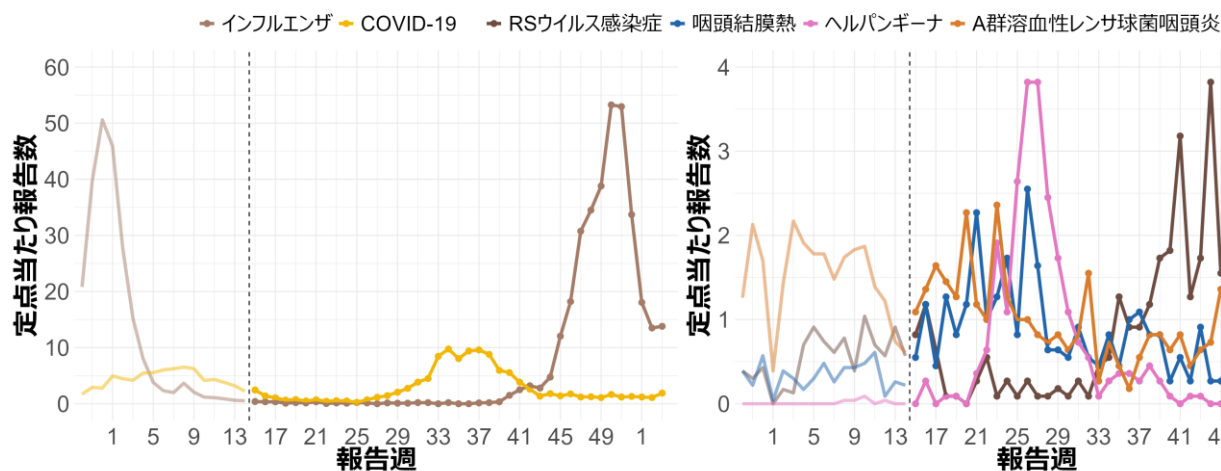
和歌山県



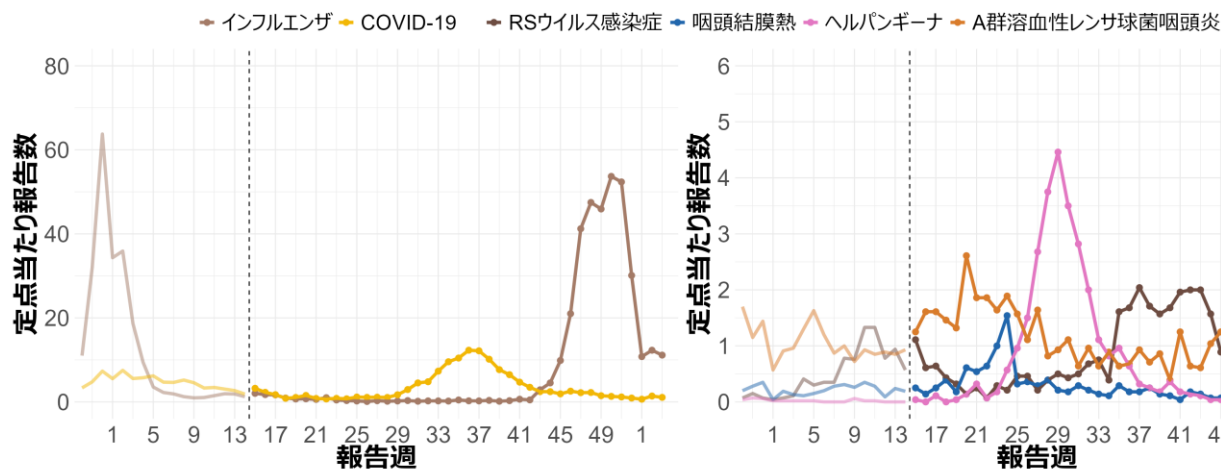
鳥取県



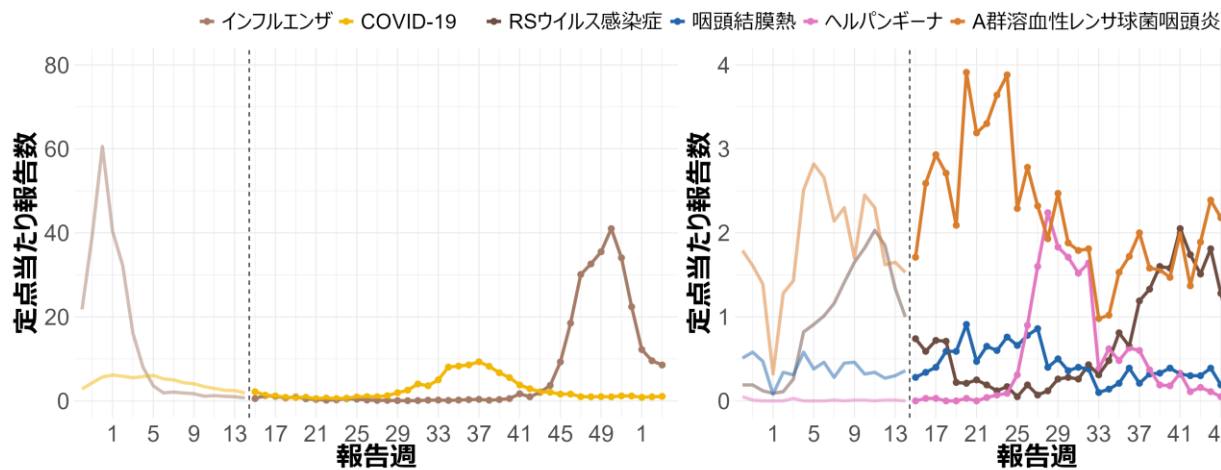
島根県



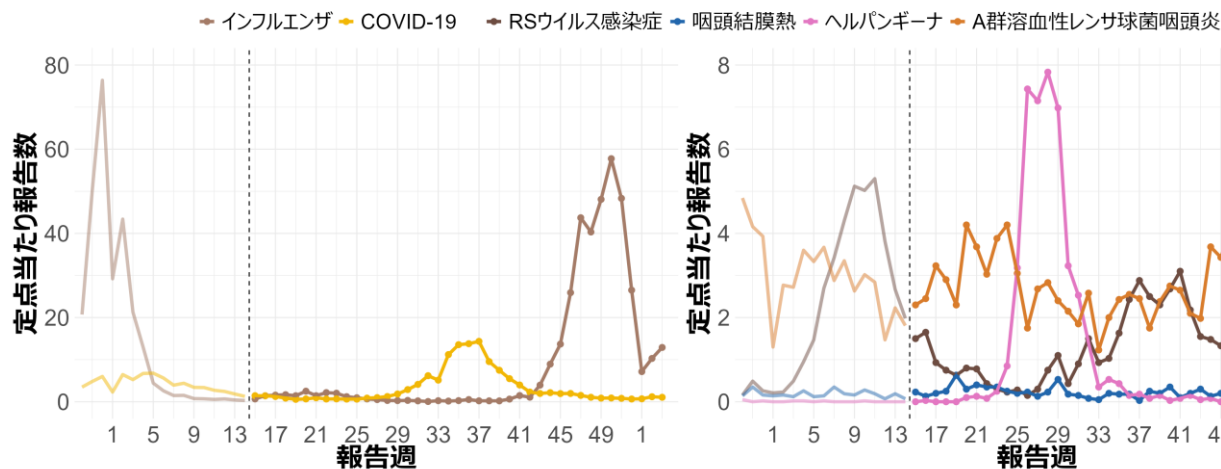
岡山県



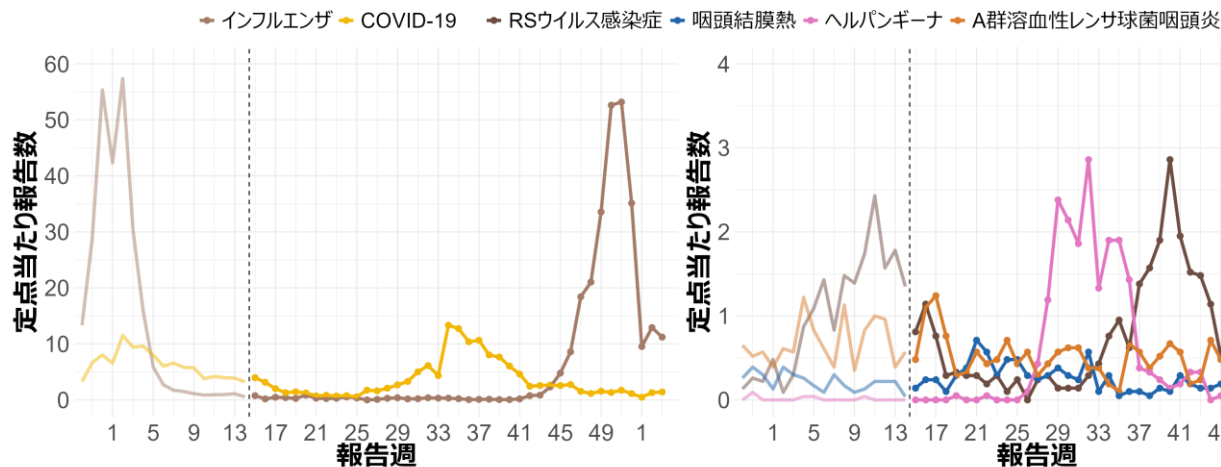
広島県



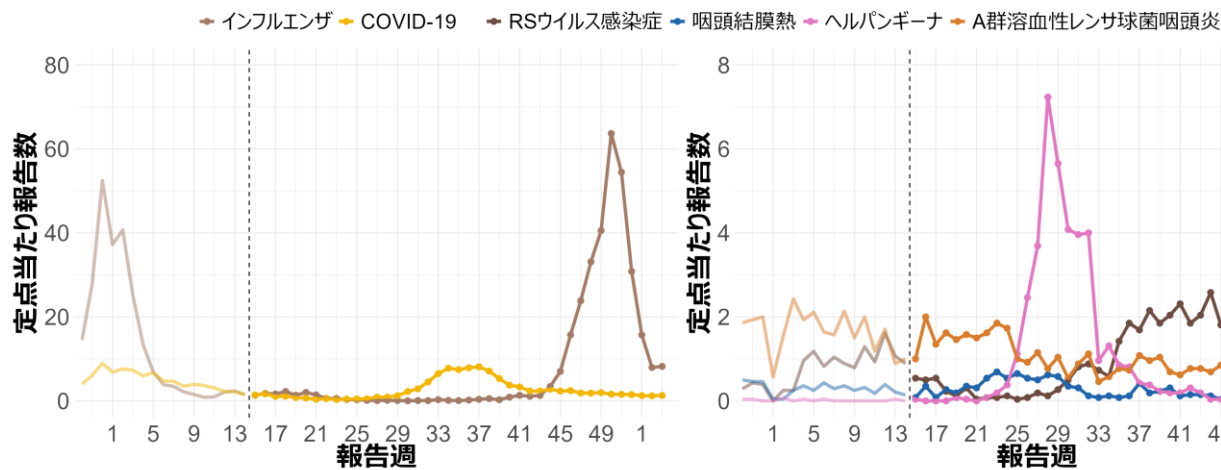
山口県



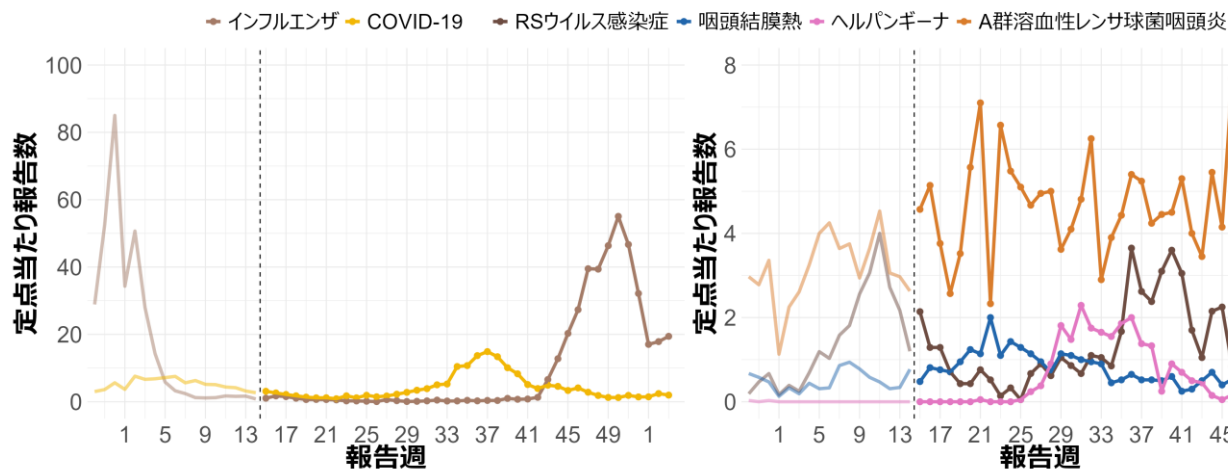
徳島県



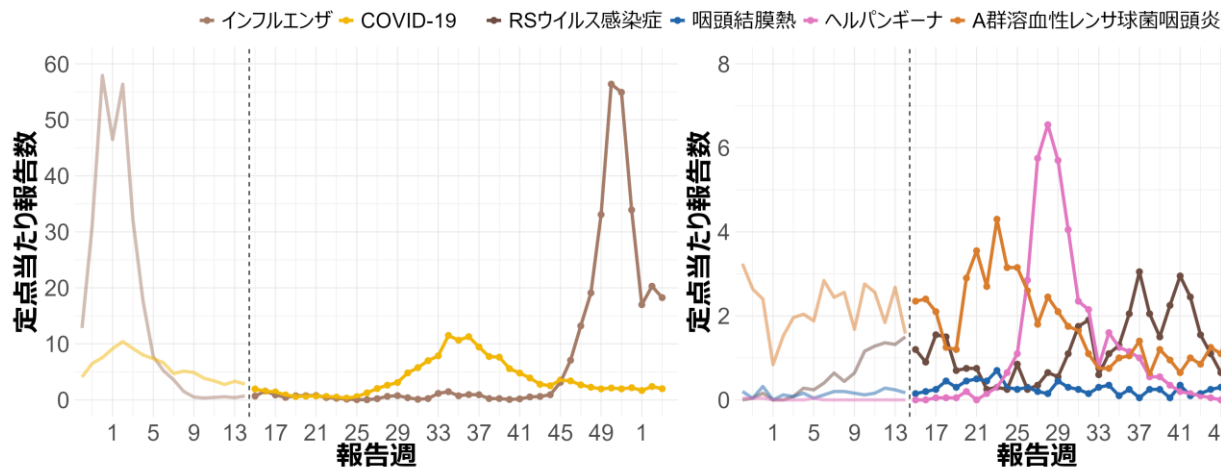
香川県



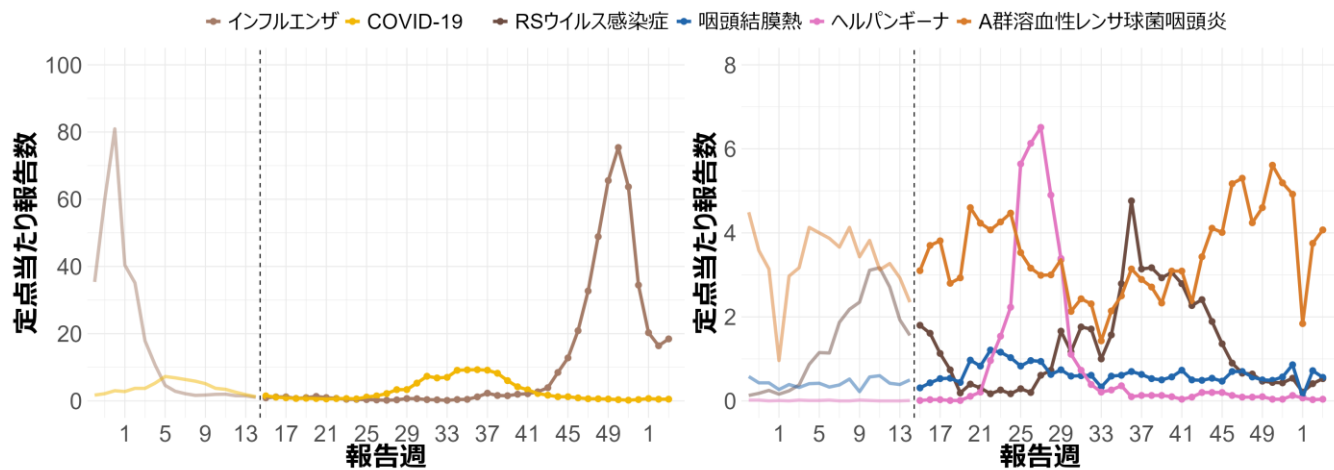
愛媛県



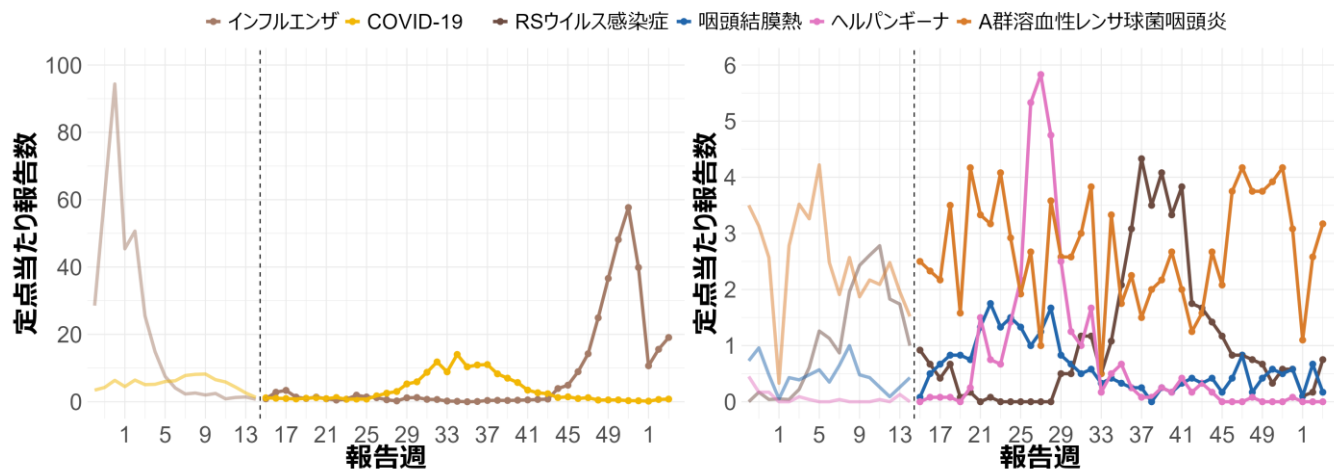
高知県



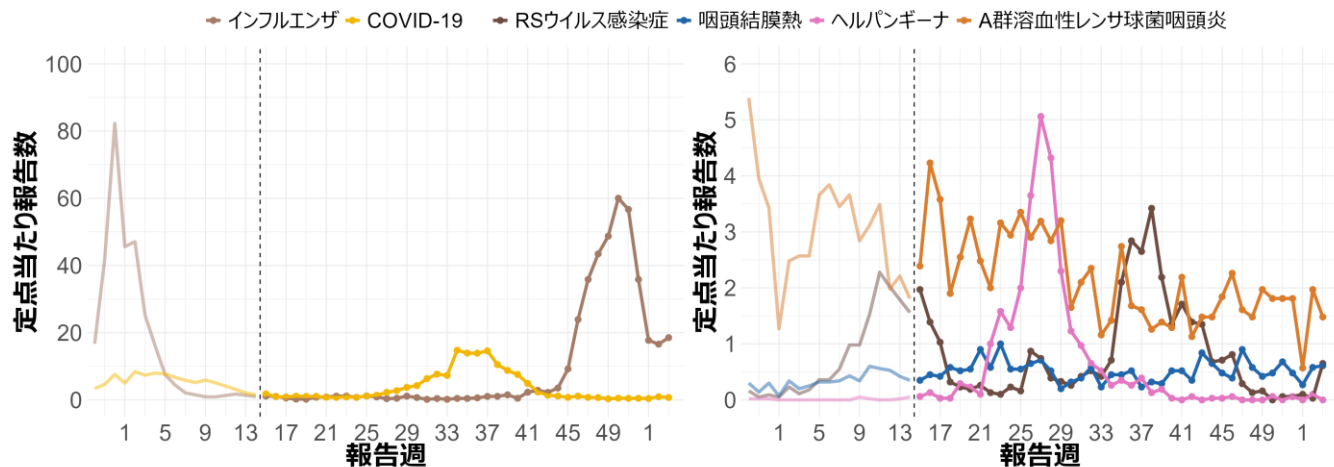
福岡県



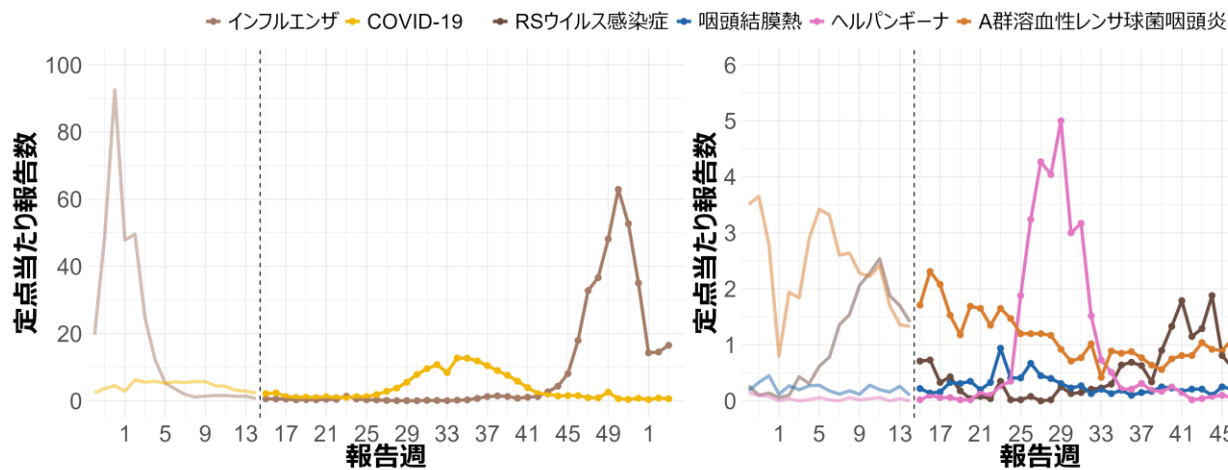
佐賀県



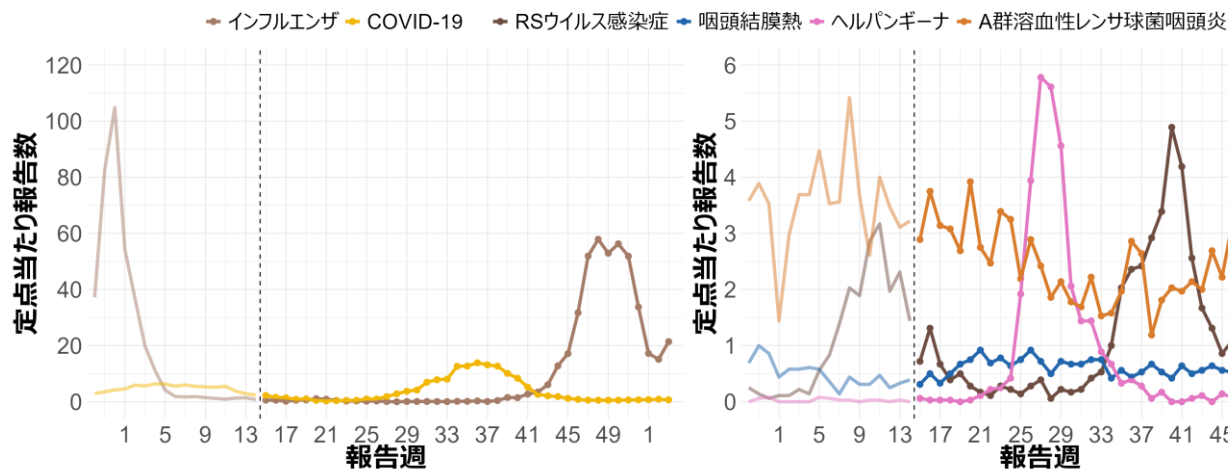
長崎県



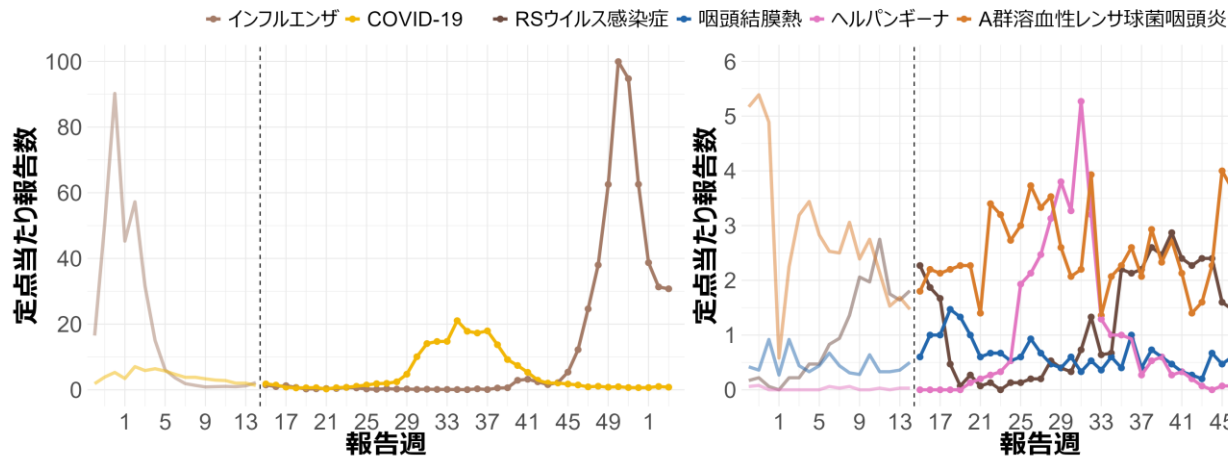
熊本県



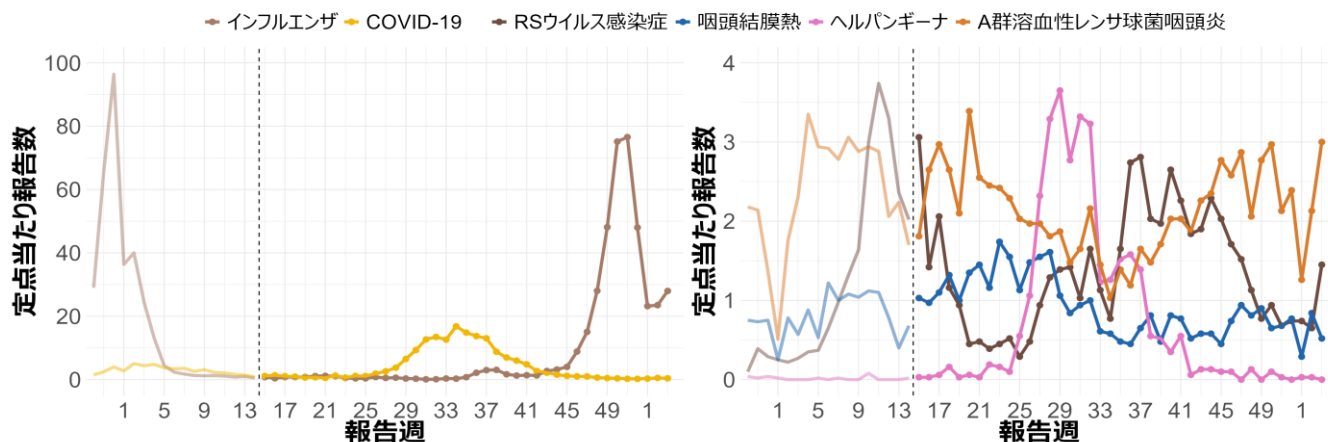
大分県



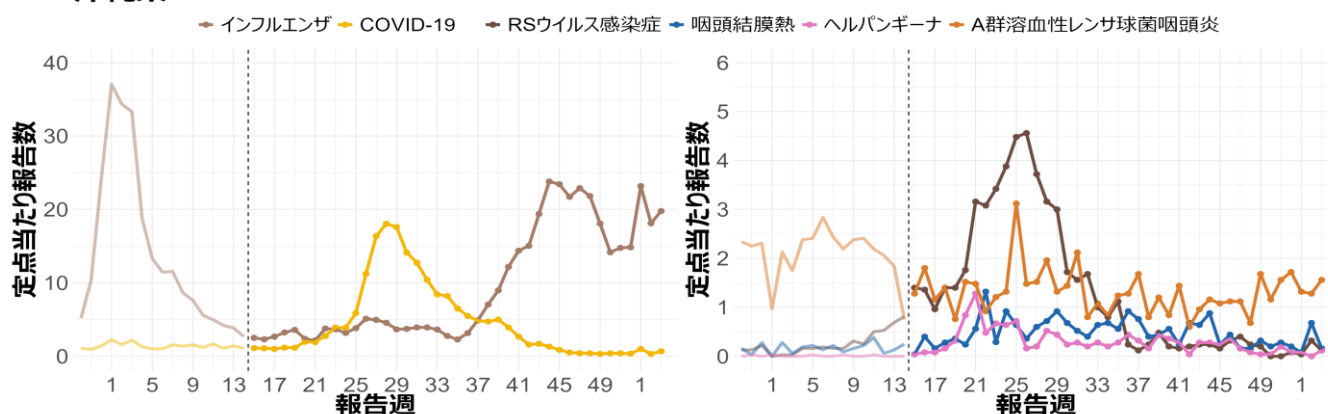
宮崎県



鹿児島県



沖縄県



出典: 感染症発生動向調査(2026年1月21日時点, データ範囲: 2024年12月9日～2026年1月18日)

注) 報告数は、当該週のIDWRで還元したデータの再掲である。

注) 定点数の変更をうけて、2025年第14週および第15週の間に点線を入れ、濃淡で区別している。

注) 2025年4月7日(第15週)より、感染症発生動向調査事業実施要綱上の定点の選定基準が変更され、インフルエンザ/COVID-19 定点(約5,000医療機関)から急性呼吸器感染症定点(約3,000医療機関)に変更、小児科定点は約3,000医療機関から約2,000医療機関に変更された。